

**小学5、6年生の子どもを持つ母親対象
侵襲性髄膜炎菌感染症（IMD）
予防ワクチン接種に関するアンケート調査
結果報告書**

平成26年4月24日

株式会社QLife（キューライフ）

調査の背景

日本人にとって新たな脅威として警戒が必要な感染症に侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)がある。IMDは、10代が罹患する可能性が高いとされる病気で、その初期症状は、吐き気や倦怠感など風邪の症状と似ており診断が難しい。罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性がある。罹患率は低いものの重篤性が高く、回復した場合にも約11～19%の割合で四肢麻痺、難聴、けいれん発作、または精神運動遅延などの生涯続く後遺症が残る。人から人への飛沫・接触感染で広がり、寮等での集団生活や人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなる疾患だ。世界全体では毎年30万人の患者が発生。特に、髄膜炎ベルトとよばれるアフリカ中央部において発生が多く、3万人の死亡例が出ている。ところが近年、わが国を含め、先進国でも散発的な感染が確認されており、特定地域における風土病としてではなく、どこの国においても対策が必要な疾患として、理解を深める必要がある。

わが国においては、1945年前後には4000例を超える患者がいたが、その後、減少し、1999年以降は、年間7～21件の発生に留まっていた。しかし、2011年5月、宮崎県の全寮制高等学校で集団感染が発生、4名が発症し、1名が死亡、保菌者は8名に上った。国内での集団発生を重く見た文部科学省は、2012年4月、学校保健安全法第18条に定められる「学校で予防すべき感染症」第二種に、IMDの代表的症状である「髄膜炎菌性髄膜炎」を追加。さらに2013年4月の感染症法の改定で、全数報告対象となる第5類感染症に規定される疾患が、従来の髄膜炎菌性髄膜炎から、髄膜炎菌を起炎とする髄膜炎・有症状の菌血症・敗血症などを含めた「侵襲性髄膜炎菌感染症」に拡大された。対象疾患が増えたこともあり、2013年4月から2014年3月までの報告件数は32件と、2012年度1年間の報告件数13件から倍増している。

10代の感染リスクが高いとされるIMDは、保菌者の中で、なぜ特定の人だけが発症するのかなど、IMDの発症メカニズムはまだ解明されていないが、予防にはワクチンが有効であることが分かっている。現在のところ、国内で承認されたワクチンはないが、海外では既に米国やカナダをはじめとする多くの国でIMD予防ワクチンが使用されており、国内でもワクチンの導入が期待されている。

そこで、QLifeでは、IMDの感染リスクが高い小学5、6年生の子どもを持つ母親に調査を行い、髄膜炎ワクチンに関する意識調査を行った。なお、同時にリスクの高い海外渡航経験者ならびに大学・専門学校の1年生の調査も行っている。

主な結論

今回の調査から、母子手帳や自治体からの連絡などで、罹患しやすい疾患の啓発が進んでいる乳幼児期とは異なり、10代の青少年が罹患しやすい疾患について、あまり情報が提供されていないことが分かった。IMDについても、「どんな病気か」を知ることでワクチン接種の意向が上昇。子どもの健康に気を配っているながらも、子どもの世代が罹りやすい病気についての情報不足に悩む母親たちの姿が浮き彫りになった。一方、ワクチン接種の意向があるものの「副反応」や「費用面」で接種まで至らないとの意見が多く見られており、「情報を精査したうえでの納得感」がワクチン接種に必要なことであると推察される。

結論の概要

1)「子どもの健康管理に気を配っている」91.2%、情報源は「かかりつけのクリニック」「自治体」

2) ワクチン接種や子どもの病気「十分」「ある程度」の情報ある62.5%

求める情報は「副反応」「時期」「ワクチン接種の必要性」など。学校によるさらなる情報提供を求める意見も。

3) ワクチン接種について「すべて」「大体は」接種させたい82.0%

4) IMDについて「よく知っている」8.6%「ワクチンで予防できることを知っている」28.3%

IMDについて、18.9%が「全く知らなかった」と回答。ワクチンによって予防できる病気であることを「知らない」のは71.7%。

5) 97%以上がIMDを「非常に怖い」「やや怖い」病気と認識

「風邪の症状と似ているが短時間で進行が進み24～48時間以内に死に至る可能性がある」との説明に強く共感。IMDに対するワクチン接種についても90%以上が「重要」「やや重要」と回答。

6) IMDワクチン「とても接種したい」「やや接種したい」78.4%

IMDの詳細な情報を知る前と比較して、「とても接種したい」24.3ポイント増加。「あまり接種したくない」「全く接種したくない」4.3ポイント減少。

7) ワクチン接種「安全性」「費用」を知りたい。情報源は「かかりつけの病院・クリニック」「自治体」から信頼性高い

ワクチン接種の検討のきっかけは「かかりつけの病院・クリニック」「自治体」に勧められることが多数に。

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 小学校5年生もしくは6年生の子供を持つ母親
- (2) 有効回収数: 1156人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2013/11/27 ~2013/12/8

▼有効回答者の属性

(1) 年代:

	n	%
20代	5	0.4%
30代	303	26.2%
40代	795	68.8%
50代以上	52	4.5%
その他	1	0.1%
総数	1156	100.0%

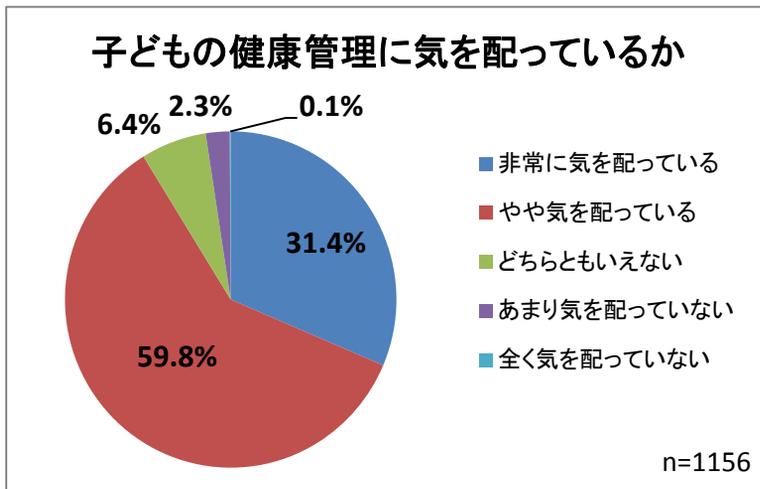
(2) 居住地:

北海道 4.3%	青森県 0.9%	岩手県 0.6%	宮城県 2.3%	秋田県 0.3%	山形県 0.3%	福島県 0.5%	茨城県 0.9%	栃木県 1.0%	群馬県 0.7%
埼玉県 5.6%	千葉県 5.1%	東京都 13.8%	神奈川県 10.2%	新潟県 1.4%	富山県 0.3%	石川県 0.7%	福井県 0.7%	山梨県 0.5%	長野県 1.3%
岐阜県 1.4%	静岡県 2.3%	愛知県 8.1%	三重県 1.0%	滋賀県 1.0%	京都府 1.8%	大阪府 7.1%	兵庫県 8.5%	奈良県 1.2%	和歌山県 0.6%
鳥取県 0.5%	島根県 0.2%	岡山県 2.1%	広島県 2.2%	山口県 0.8%	徳島県 0.4%	香川県 0.7%	愛媛県 1.0%	高知県 0.4%	福岡県 3.6%
佐賀県 0.4%	長崎県 0.6%	熊本県 1.2%	大分県 0.4%	宮崎県 0.1%	鹿児島県 0.1%	沖縄県 0.8%			

【Q1】子どもの健康管理について、最も近いものをお教えてください。

9割を超える母親が子どもの健康管理について「非常に」「やや」気を配っている、と回答した。

	(SA)	
	n	%
非常に気を配っている	363	31.4%
やや気を配っている	691	59.8%
どちらともいえない	74	6.4%
あまり気を配っていない	27	2.3%
全く気を配っていない	1	0.1%
総数	1156	100.0%



【Q2】ワクチン接種や子どもの病気に関して、どんなところで情報を収集しますか。(複数回答)

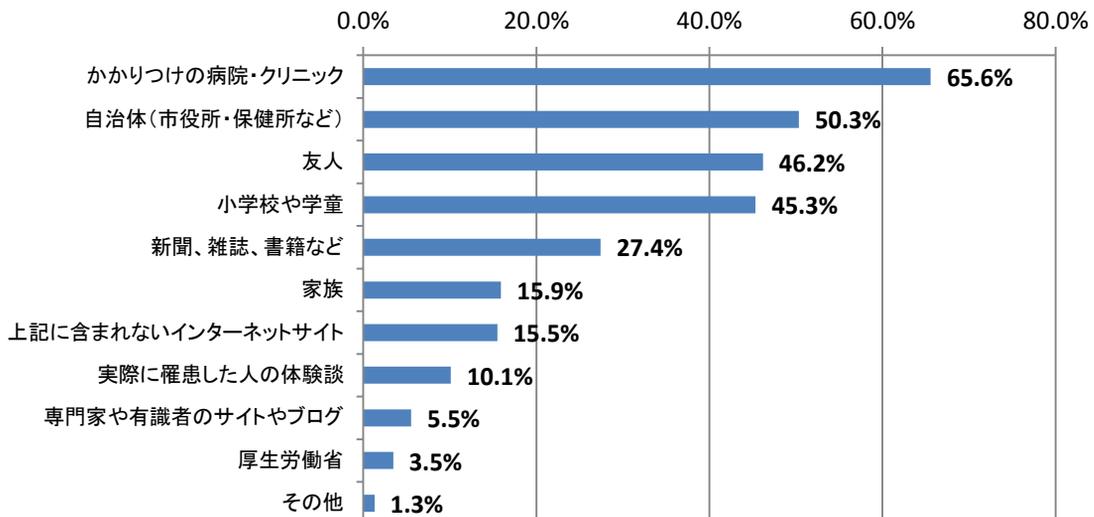
情報源について「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く65.6%。次いで「自治体」「友人」となった。

n=1156

(MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	758	65.6%
自治体(市役所・保健所など)	582	50.3%
友人	534	46.2%
小学校や学童	524	45.3%
新聞、雑誌、書籍など	317	27.4%
家族	184	15.9%
上記に含まれないインターネットサイト	179	15.5%
実際に罹患した人の体験談	117	10.1%
専門家や有識者のサイトやブログ	64	5.5%
厚生労働省	40	3.5%
その他	15	1.3%
総数	1156	286.7%

ワクチン接種や子どもの病気に関して
どんなところで情報を収集するか(複数回答)



n=1156

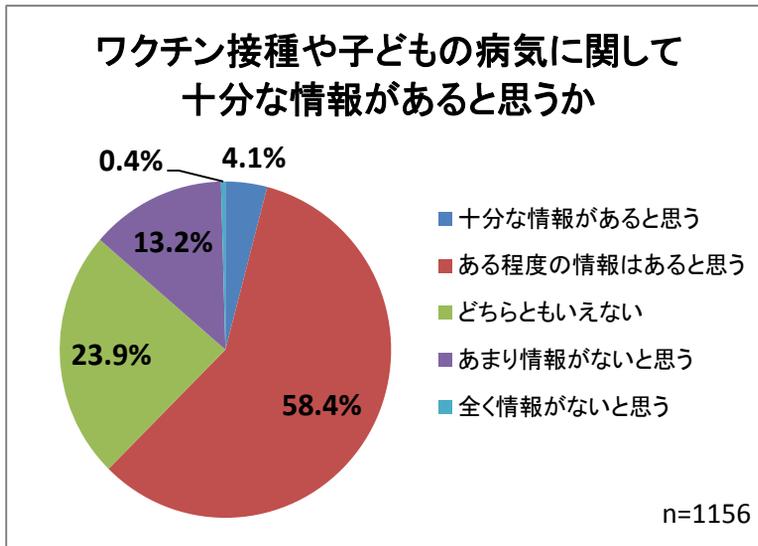
【Q3】ワクチン接種や子どもの病気に関して、十分な情報があると思いますか。

「十分」「ある程度」の情報がある、と回答したのは62.5%だった。
一方、「あまり」「全く」情報がないと回答したのは13.6%だった。

n=1156

(SA)

	n	%
十分な情報があると思う	47	4.1%
ある程度の情報はあると思う	675	58.4%
どちらともいえない	276	23.9%
あまり情報がないと思う	153	13.2%
全く情報がないと思う	5	0.4%
総数	1156	100.0%



【Q4】ワクチン接種や子どもの病気に関して、あなたが「情報が足りない」と思うのはどんなことですか。詳細に教えてください。

回答中のうち、頻出単語を抽出したところ、「副作用」「病気」「時期」「必要」「病院」などの単語が多く存在した。以下に代表的な単語が含まれる、回答の一部を列記する。

抽出語	文書数(段落)	抽出語	文書数(段落)	抽出語	文書数(段落)
接種	278	多い	39	詳しい	26
副作用	270	必要	37	調べる	26
ワクチン	260	病院	37	リスク	25
情報	247	分かる	35	打つ	25
特に	143	学校	34	自治体	23
思う	83	自分	34	種類	23
病気	81	聞く	33	入る	23
受ける	77	摂取	31	ほしい	22
予防	77	流行る	31	効果	22
時期	66	反応	30	忘れる	22
知る	60	子供	29	インフルエンザ	21
いい	48	流行	29	危険	21
いつ	45	足りる	28	日本脳炎	21
少ない	43	安全	26	任意	21
子宮	39	今	26	変わる	21

【副作用】

- ・副作用はないと言ってみたり、急に副作用があると言ってみたり、どっちなんだということがあるので、副作用に関してはこちらとした情報がほしい。
- ・副作用についての危険性をあおるような記述をネットで良く見かけますが、仮に副作用が起きたとして、どの位の確率で、どのような影響がでて、副作用が起こったことに対する対策方法はどのようなものがあるか、という所まで掘り下げた解説が少ないように思います。
- ・ワクチン接種は基本だとは思いますが、たとえば子宮頸がんなどのリスクのあるワクチンなど重篤な副作用があった場合に、マスコミ経由の問題提起の前に、対策を打つべきだと思う。また、法定ワクチン接種は必須だと思うが、ワクチンを打つべきでないという育児書も存在するので、受けない母もおり、受ける受けないの両極端の親がいるのはやはり一般的な病気の具体的な症状のイメージが出来ていないこと・ワクチンの副作用、メリットを理解していないことがあると思うので、病気の内容、写真などを見せたり、副作用もしっかり説明して納得させるのが一番いいと思います。
- ・深く考えたことはないのですが、副作用や後遺症などは気になります。もちろん、自分でしっかり調べれば分かることなので、何事も受身ではいけないと思っています。
- ・本当は、病気にかからないようにするためのワクチン接種ですが色々な副作用があり、運悪く、副作用が出た場合は、個人の責任のように感じている感じがする。

【病気】

- ・昔と違って新種のものや、聞いたことがない病気が多々あるので、どんな病気があって、流行っているのか？対処の仕方、どんなところを気を付けなければならないのか？ということ。
- ・どのような病気を防ぐためのワクチンかはわかりますが、その後遺症、うたなくてもいいのかなどわからない
- ・病気の具体的な症状のイメージが出来ていないこと・ワクチンの副作用、メリットを理解していないことがあると思うので、病気の内容、写真などを見せたり、副作用もしっかり説明して納得させるのが一番いいと思います。
- ・赤ちゃんのころに比べて、ワクチン接種や病気について、定期的に公的機関からの情報通知が減っている気がする。
- ・たとえば 水ぼうそう おたふくを小さなころの打ちましたが 該当ワクチンの病気にならずに 10年以上経ちました。その後、ワクチンの効果が薄れているのであれば打ちたいのですが 該当ワクチンが何年くらい有効か等の情報がほしいです”

【Q4】ワクチン接種や子どもの病気に関して、あなたが「情報が足りない」と思うのはどんなことですか。詳細に教えてください。(続き)

【時期】

- ・ワクチンの種類が多すぎて、どのワクチンをどのくらいの年齢の時期に何回必要か、どのくらいの人が接種しているのかなどの情報が欲しい。
- ・決まった時期に摂取できなかった時の対応方法
- ・摂取の時期など公共機関からの連絡がない
- ・ワクチン接種の時期を自分で把握しなければいけない。忘れても何のおしらせもない。
- ・特に低年齢児には、ワクチン接種回数・種類が多く、時期等の把握・考慮が必要なのも母親一人で取り組まなければならないのが負担です。

【必要】

- ・副作用のことやどうしてそのワクチンが必要なのかと言う説明はあまり聞くことがない
- ・実際に必要なワクチンであるのか、最近になって名前をつけた病気であるのではないのか等です。
- ・本当は何が必要で何が必要ではないのかがわからない、メディアでの情報が二転三転することがあり、どれを信じて良いのかわからない。
- ・インフルエンザなどは、予防接種を受けても毎年大流行し、必要性を感じない。
- ・母子手帳に記載されている予防接種以外に必要なと思われるワクチンの情報が足りない。予防接種の副作用の発生率や症状などがあまりわからないので、接種が義務化されていないものについてまで接種が必要かどうか躊躇することがある。1度のワクチン接種で何歳頃まで効果があるのかわからない。

【病院】

- ・休日に診察してくれる病院が分からなくて困ったことがある。
- ・料金や種類が自分で問い合わせないとはっきりしないこと。病院によって、ワクチンの料金が違うのはおかしいと思う。
- ・ワクチン接種ができる病院と時間と料金が一目でわかる情報がない。さらに言うなら、どう言った病気に対してどのくらい効果があるのかも説明不足。
- ・情報が足りないというよりは、正確さをどのように図るかがよくわかりません。専門家のサイトや病院・厚生省等のサイトは、難しい専門用語が多すぎる気がします。
- ・市内に多くの病院があるが、接種状況や接種にかかる金額など、あまりよくわからないから。

【学校】

- ・今、住んでいる地域で流行している病気についての情報。実際にかかりつけの近所の医院にかかって初めて、「こういう病気がこの小学校で流行っている(そういう患者さんが多い)」と聞くことが多い。そういう情報がダイレクトに各学校に伝わって、連絡プリントなどで注意を促してくれるといいと思う。
- ・学校で子供たちにもワクチンの大切さとかを教えてほしい。予防接種は学校でいっせいで行ってほしい。(無料で)
- ・学校ごとに今何が流行しているか、ネットなどでリアルタイムに情報提供してほしい。たまの健康だよりでは遅すぎる。
- ・受けなくてはならない予防接種は 市から手紙が来るが 任意の情報や 後遺症の関係で受けるのがいいのかわかる情報がインターネットを見ないとわからない。学校を経由してくれると助かる
- ・乳幼児の頃と違って小学校や中学校から問診表と説明書を急にもらってくる、もっと前もって保健所等からお知らせがあってもいいのではないかと思います

【Q4】ワクチン接種や子どもの病気に関して、あなたが「情報が足りない」と思うのはどんなことですか。詳細に教えてください。(続き)

【流行・流行る】

- ・今、どこで何が流行ってるのかなどの情報がインターネットで簡単にみれたらと思います
- ・感染力の強い病気が流行し始めた時に、学校と医療機関の情報交換や連携が十分でない。
- ・通学や近隣の学校等でのインフルエンザやその他伝染性の病気の流行状況。
- ・流行中の病気に関する予防法・対処法など。

【安全】

- ・ワクチンが本当に安全かということ。
- ・一度中止になった予防接種がいつの間にか復活していた時に安全性が心配だった。でも予防接種は受けた。
- ・ワクチンや治療の安全性がよく理解できるように身近で情報収集できるようにして欲しい。
- ・ワクチン接種で副作用かもしれない事例が発生したとき、大きな問題になればTVや新聞にのるが、その後どういう結論になったのか、安全とする根拠などは大きくは取り上げられない
- ・ワクチンの安全性や正しい情報が不足している

【リスク】

- ・無料のワクチン接種に関して年齢の期限があること。予防接種を受けそびれ自費で摂取するようにならぬように言われ安くないので受けるかどうか悩んでいる。予防接種に関するリスクについても情報が少ないと思う。
- ・海外と日本でうけるべきワクチンの違い。受けない場合のリスク。
- ・ワクチン接種を規定内にできなかった場合にはどうしたらよいのか。任意接種について適した時期はいつか。予防接種による副作用についてどのくらいのリスクがあるのか
- ・リスクが高いワクチンでもなかなか発表してくれず、打つ側が調べないと分からないこと。素人が調べるので情報の質も薄かったり足りなかったり、本当に打つべきなのか否か、打っていいのか止めるべきか一つ一つとても迷います。

【Q5】子どもへのワクチン接種に対してあなたの考え方に近いものを教えてください

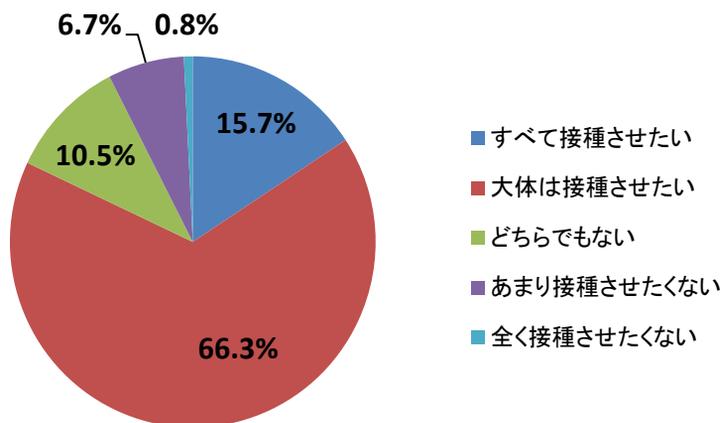
「すべて」「大体は」接種させたい、と回答した母親は全体の82.0%になった。
一方、「あまり」「全く」接種させたくない、と回答した母親は7.5%だった。

n=1156

(SA)

	n	%
すべて接種させたい	182	15.7%
大体は接種させたい	766	66.3%
どちらでもない	121	10.5%
あまり接種させたくない	78	6.7%
全く接種させたくない	9	0.8%
総数	1156	100.0%

子どもへのワクチン接種に対する考え方



n=1156

【Q6】前問でそう考えた理由について、詳細に教えてください。

以下に回答別に代表的なコメントを列記する。

【すべて接種させたい】

- ・ワクチンを接種した方が罹患した場合も軽く済むので重篤な副作用情報がない限りは受けさせたい
- ・接種すれば病気に掛からないと思っているので。リスクのある予防注射を接種呼びかけするはずはないと思っているので。
- ・接種する事によって、病気にかからない・かかりにくくなるのであればすべて接種させたいと思います。これは子供には選択のできないものだから、親の愛情だと思えます。
- ・将来仕事等で外国に行くこともあり得る。受けていれば海外に行くことになっても困らないから。
- ・接種することにより、将来、病気にかからなくてすむのならば、多少のリスクはあっても予防接種をうけさせたい
- ・医療関係者や、薬剤師など、医療に知識のある人ほど、接種しないよりは、した方が身体的な危険度は減るという意見が大半だから。
- ・たどえかかってしまったとしても軽く済むと思うし、予防できることはすべてしてあげたいから。
- ・接種で予防できるなら接種した方が良いと思う。接種無しでり患して重篤な状態になるより全然いいと思うし、接種してもし罹患した場合に症状が軽減できると思うので。子どもや看護する自分自身の負担も軽くなると思う。

【大体は接種させたい】

- ・予防できる病気はワクチン接種で予防したいと思うが、副作用や安全性も気になるので安全と確認できるのなら、予防できるものはしたいから。
- ・ワクチンで防げるのであれば、やる事はやっておきたいが、深刻な副作用がある場合もあるので種類によっては接種をためらう物もある。
- ・副作用の怖いものや、任意の場合、費用の高額なものがあり子供の多い我が家には負担で出せないことが多いから。
- ・安全性の高いワクチンであれば、子供の為にも摂取させたいが、新しいワクチンなどは、少し考えたい
- ・母子手帳に記載のあるものについてはすべて接種させたい。
- ・全面的に信頼はしていないが、接種せずに病気になって後悔したくない。
- ・任意で接種するものを全てやると高額になってしまう。かかっても重症化しにくいものは受けるかどうか考える。
- ・国が定めたものは すべて受けさせる。ただし、インフルエンザやおたふくなどの任意接種のものは その時必要なら受けさせる
- ・ワクチンで防げる危険は防ぎたいが、副作用などが未確認のものなどは、例え義務でも親の判断で接種が必要かどうかを検討したい。
- ・任意の摂取に対しての費用が高すぎるので、躊躇し、本心では全て摂取させたくても実情ではなかなか厳しい家庭も多いと思うし、実際に我が家でも全てとまではいかないです。

【どちらでもない】

- ・子宮頸がんワクチンの問題があるまでは全部接種したいと思っていたが どんどんワクチンが増えていく現状を見ると全部必要か疑問だから
- ・副作用のニュースなどを目にとると怖くなる。でもワクチンを接種することによって、防げたり症状が軽減するのなら接種させたいと思うから。
- ・その病気にかかるると命の危険があるものは接種するべきだと思うが、インフルエンザなどは、持病のある方や受験を控えている子供くらいで構わないのではないかとと思う
- ・本当に必要なものなのか？(自分たちが子供のころに比べて接種するものが多いので不安)副作用(突然出るアレルギー反応など)がどの程度でなのか？プラス面ばかりが情報として出ていてマイナス面がよくわからないので、何とも言えない。
- ・今のところ必要な予防接種は受けさせているがいつ副反応が出るかはわからないので「もしも」を考えると怖い。またワクチンの中の添加物も気になる。
- ・ワクチン接種には、副作用が出る場合もあるから、効果と副作用をしっかりと自分なりに情報収集をしてから決めたい。定期の予防接種に関しては、感染症の流行とかにもつながるから受けなくてははいけないと思うが、任意の予防接種に関しては、自分なりに納得して、責任を持って接種を決めたいと思う。おたふくや水ぼうそうについては、自然にかかって、強い免疫を作りたいと思いました。

【Q6】前問でそう考えた理由について、詳細に教えてください。(続き)

【あまり接種させたくない】

- ・ワクチンだけに頼らず日々の健康管理をきちんとやっているから
- ・以前は必須で接種しなければいけなかったワクチンが数年後には希望接種になっていたり、評価が定まらないものもある。
- ・副作用に関しても年々新しい情報が出てきており、何が何でも接種しなければという意識はあまりない。
- ・インフルエンザの予防接種は毎年のようにしていましたが、インフルエンザにかからないかというところでもなく、あえてしない年はかからないなど、効き目に疑問があったり、子宮頸がんワクチンのように、後遺症の出るものもあるので、納得できるものしか受けさせたくない。
- ・副作用の危険性で一時中断されたり、本当に必要なかわからない。インフルエンザの予防接種なども、毎年受けている子がインフルエンザにかかって、まったく受けていないのかからない子もいるので疑問に思う。
- ・必要なのであるのなら接種させるが、みずぼうそうやおたふくなど、自然で罹患するもの、特に接種しなくても命にかかわらないなら受けない。個人負担が大きい。
- ・やはり副作用があるかもしれないというところが引っかかります。万人が大丈夫だという確証がなければなかなか。。。打たない方のリスクが高ければ接種する割合もUPするのかなとは思いますが。
- ・子どもワクチン接種に対して、今までは、無料で抗体を作れるなんて、ラッキーくらいにしか考えていませんでした。でも、万が一副作用が出てしまったら、その後の人生は違ったものになってしまうと考えています。健康体にあえてワクチンを接種する意味を、考え中です。
- ・それほど効果があるとは思えないようなワクチンもあるし、副作用、製造方法など情報が分からない。子宮頸がんワクチンのように、海外では廃止の声が上がっていた中、そういった情報は示さずに推奨し、副作用が表面化してきてから、手のひらを返すように推奨しなくなった。進め方が信用できない。

【全く接種させたくない】

- ・必要のないワクチンを打つことにより、子供が障害を負ってしまったら、悔やんでも悔やみきれないから。
- ・最近になり、いろいろな情報を知り、子どもを危険な目に合わせたくないと思ったので。
- ・副作用が心配だし、余計なものは体に取り入れたいから

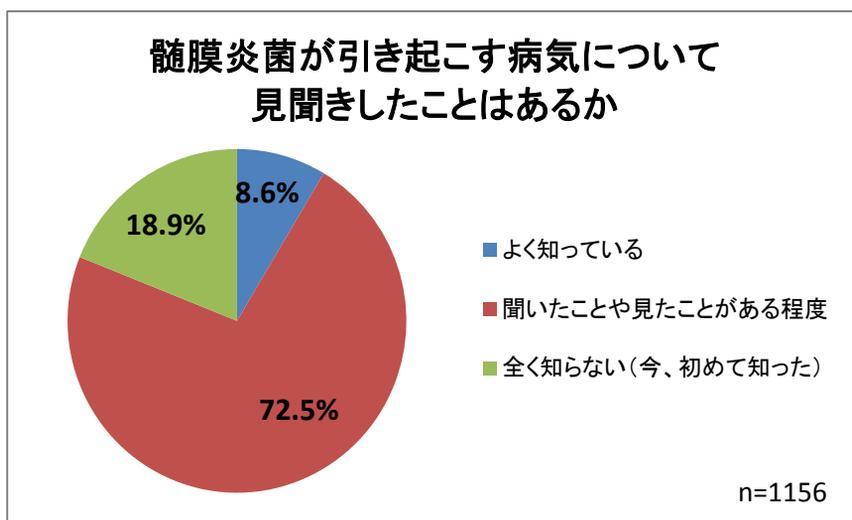
【Q7】髄膜炎菌が引き起こす病気について、見聞きしたことはありますか。

約8割の母親が何らかの形で知っていると回答したものの、大部分が「聞いたことや見たことがある程度」だった。

n=1156

(SA)

	n	%
よく知っている	99	8.6%
聞いたことや見たことがある程度	838	72.5%
全く知らない(今、初めて知った)	219	18.9%
総数	1156	100.0%



【Q8】IMD(=侵襲性髄膜炎菌感染症:髄膜炎菌が引き起こす病気を総称してこう呼びます)は、ワクチンによって予防できる病気です。このことをご存じでしたか。

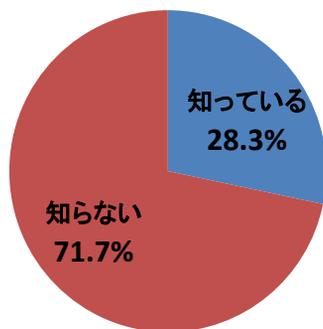
約4人に1人の母親が「知っている」と回答した。

n=1156

(SA)

	n	%
知っている	327	28.3%
知らない	829	71.7%
総数	1156	100.0%

IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)が
ワクチンによって予防できる病気である
ことを知っていたか



n=1156

【Q9】IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)を予防できるワクチンがあったら、子どもに接種させたいですか。

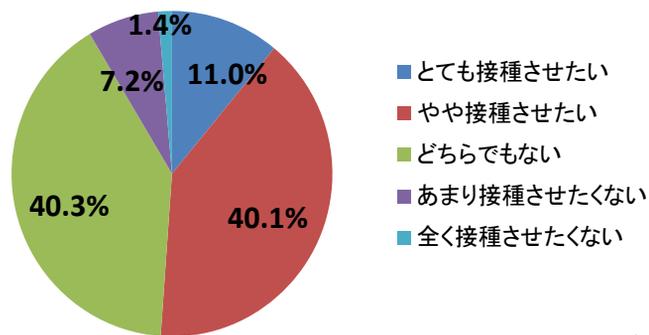
約半数の母親が「とても」「やや」接種させたいと回答。一方、「あまり」「全く」接種させたくない、と回答した母親は8.6%だった。

n=1156

(SA)

	n	%
とても接種させたい	127	11.0%
やや接種させたい	464	40.1%
どちらでもない	466	40.3%
あまり接種させたくない	83	7.2%
全く接種させたくない	16	1.4%
総数	1156	100.0%

IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)を
予防できるワクチンがあったら
子供に接種させたいか



n=1156

【Q10】 IMDについて知って自身の気持ちに最も近いものを教えてください。

全説明において、97%以上の母親がIMDについて「非常に怖い」「やや怖い」病気だと思う、と回答。「非常に怖い病気だと思う」と回答した比率が最も高かったのは「IMDの初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など風邪の症状と似ており診断が難しい病気ですが、罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性があります。」という説明だった。

	IMDは「非常に怖い」病気だと思う	IMDは「やや怖い」病気だと思う	IMDは「それほど怖くない」病気だと思う	IMDは「全く怖くない」病気だと思う	n	IMDは「非常に怖い」病気だと思う	IMDは「やや怖い」病気だと思う	IMDは「それほど怖くない」病気だと思う	IMDは「全く怖くない」病気だと思う	%
IMDの初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など風邪の症状と似ており診断が難しい病気ですが、罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性があります。	885	256	10	5	1156	76.6%	22.1%	0.9%	0.4%	100.0%
IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。	852	286	13	5	1156	73.7%	24.7%	1.1%	0.4%	100.0%
IMDは、10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります。	826	306	19	5	1156	71.5%	26.5%	1.6%	0.4%	100.0%
IMDは、人から人への飛沫感染で広がり、集団生活や寮生活を営む方、もしくは人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなります。	742	382	27	5	1156	64.2%	33.0%	2.3%	0.4%	100.0%

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの

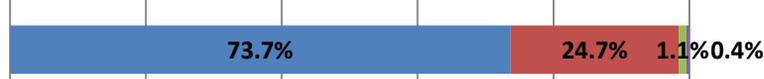
- IMDは「非常に怖い」病気だと思う
- IMDは「やや怖い」病気だと思う
- IMDは「それほど怖くない」病気だと思う
- IMDは「全く怖くない」病気だと思う

0% 20% 40% 60% 80% 100%

IMDの初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など風邪の症状と似ており診断が難しい病気ですが、罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性があります。



IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。



IMDは、10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります。



IMDは、人から人への飛沫感染で広がり、集団生活や寮生活を営む方、もしくは人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなります。



【Q11】IMDについて知って自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(IMDに対するワクチンの重要性について)

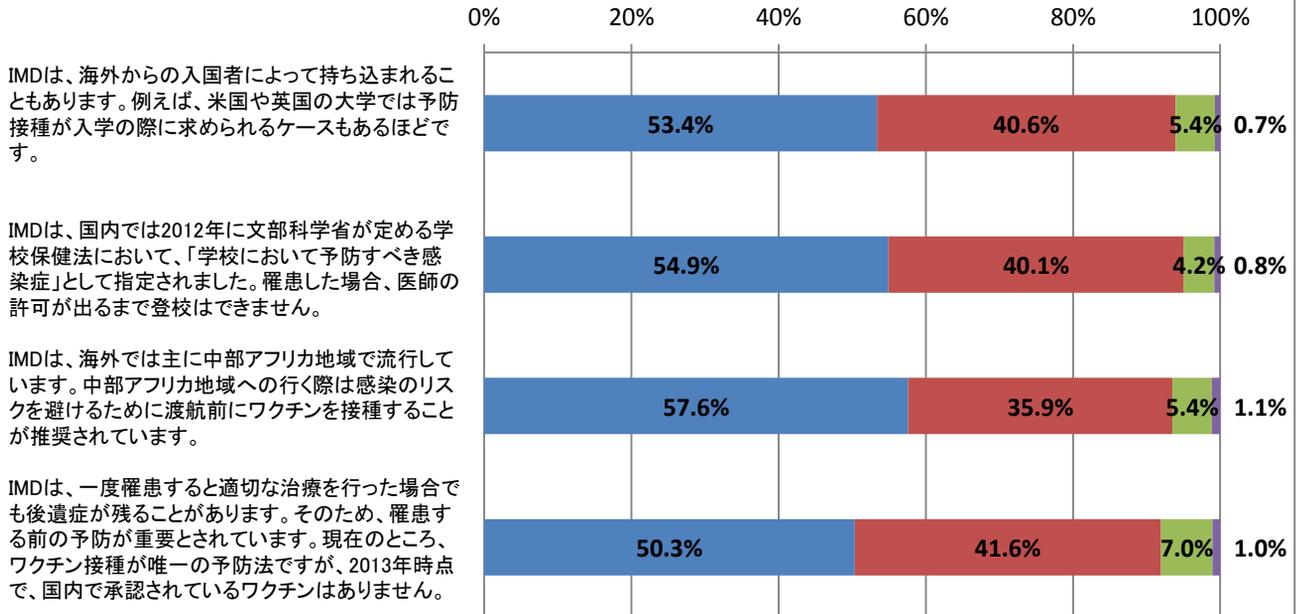
全説明において、90%以上の母親がワクチン接種に対して「重要」「やや重要」と回答した。最も「重要」であると回答した比率が高かったのが「IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。」という説明だった。

	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	n	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	%
IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。	617	469	62	8	1156	53.4%	40.6%	5.4%	0.7%	100.0%
IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。	635	464	48	9	1156	54.9%	40.1%	4.2%	0.8%	100.0%
IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。	666	415	62	13	1156	57.6%	35.9%	5.4%	1.1%	100.0%
IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。	582	481	81	12	1156	50.3%	41.6%	7.0%	1.0%	100.0%

【Q11】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(つづき)

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの (IMDに対する予防ワクチンの重要性)

- IMDに対するワクチン接種は重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない
- IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない



【Q12】前問までの内容を踏まえて、IMDを予防するワクチンが接種できるとして、あなたの気持ちに最も近いものを教えてください。

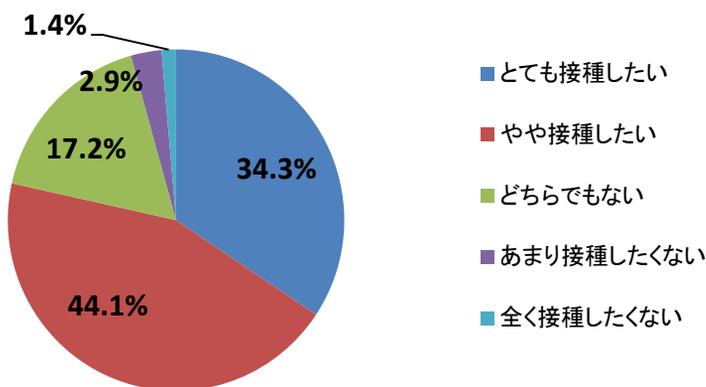
IMDについて説明した後のワクチン接種意向について、約8割の母親が「とても」「やや」接種したい、と回答した。説明前に接種意向を尋ねたQ9と比較すると、「とても接種したい」は11.0%→34.3%と33.3ポイントの大幅な増加、「やや接種したい」は40.1%→44.1%、「あまり接種したくない」「全く接種したくない」の合計は8.6%→4.3%と半減した。

n=1156

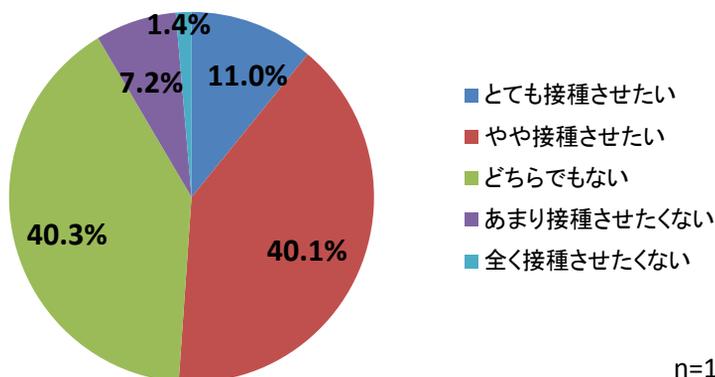
(SA)

	n	%
とても接種したい	397	34.3%
やや接種したい	510	44.1%
どちらでもない	199	17.2%
あまり接種したくない	34	2.9%
全く接種したくない	16	1.4%
総数	1156	100.0%

前問までの内容を踏まえてIMDを予防する ワクチンを接種したいと思うか



(参考)Q9 IMDに関する情報を知らない状態 でのワクチン接種意向



【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。

以下に回答別に代表的なコメントを列記する。

【とても接種したい】

- ・罹患すると急激に進行し死亡する例も多く後遺症も残りやすいということ、予防接種が有効であるということから事前に予防するのが一番よいと思うので
- ・子供にせよ大人にせよ、人間は集団生活を行う動物なので、一人が発症すると、集団感染を起こす可能性が高くなる。そうなると、罹患率も高くなってしまふ
- ・国際化が進む現代で、海外の疾患とは言い切れず、ワクチンによりそのリスクが減らせるなら選びたいと思うから。
- ・子供は1日ほとんどを集団生活の中(学校・習い事)で過ごしています。そこで集団感染するかもしれないIMDの予防ができるのであれば接種はさせたいと思います。(副作用がない事が前提で…)
- ・きちんと説明いただいて、病気の怖さをしりました。ワクチンを打つことで発症を抑えられるならぜひとも打ちたいと思いました。が、費用が気になります
- ・IMDの症状やその怖さを初めて知った。死亡率の高い病気だと知らなかったので、ワクチンがあるなら接種したい
- ・予防接種が必要な病気は未就学児が主だと思いがちだが、10代、体力のある高校生が死亡したというのは非常に怖い病気である。自分の子にかからないと断言できない以上、接種するべきだと思う。
- ・接種したことによる副作用リスクについて、納得のいく範囲なら、という前提付だが、「まさか自分の子供が…」という病気の経験があるので(10万人に5人程度の)自分の子供が、わずかな不運には当たらないという考えは無くなっている。予防できる病気があれば、リスクについてよくよく調べたうえで、積極的にワクチン接種を考えたい。
- ・日本の高校で、そのような集団感染があったことは、ぜんぜん聞いたことがないし、周りの主婦たちも、知らないと思う。混乱が起きてはいけませんが、もっと知るべきなのではと思った。そういう情報が日本にあまりないのは、おかしい。
- ・麻痺など障害残る症状があることに恐怖を感じる。海外から持ち込まれ国内で感染して発症したらと思うと怖いのでぜひ接種をさせたいと思います。
- ・海外に出る機会もますます多くなるであろうから、欧米基準の予防接種が必要だと思う。

【やや接種したい】

- ・ワクチン接種で予防・もしくは罹患しても軽く済むのであれば、できるならそれがベストだと思うから。ただし、もう少し詳しい情報がなければ(危険性はないのか、副反応はどうなのかなど)接種させるかどうかは決断しかねる。
- ・風邪との判断が難しいと知らず知らずのうちに感染してしまう恐れ、誤診断される恐れがあり、またなんらかの障害も残るとなると怖いから
- ・どのくらいの割合でその病気にかかるかわからないが、ワクチンの安全性もよく考えて接種していきたい。
- ・ワクチンをしてIMDに確実に感染しないのであればワクチン接種をしたいが、ワクチン接種に副作用があるならば今すぐしたいとは思わない。
- ・感染率は低くても、飛まつ感染で広がり、発症すると重症になる確率が高いものなら、根絶したい。ワクチンによって予防できるなら、予防接種を受けさせたい。
- ・海外の人と日本人では体質や体格が違うので、国内で承認されないと安心できないからもっと詳しい内容を知ってから検討したい
- ・接種で予防できるのであれば接種させたいと思います。ただ、リスクが生じるのであれば情報開示してほしいと思います。
- ・感染はすごく怖いですが、接種による後遺症も心配。もっと多くの事例といろんな専門家の意見を聞きたい。

【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。

【どちらでもない】

- ・アフリカに行かなければいいのかな
- ・ワクチンが接種できるとはいえ、副作用などがなく安全であることが証明されないと単純に接種する気持ちにはなれない気がする
- ・罹ったら大変な病気だということはわかったけど、発症率がどの程度なのかわからない。罹れば大変な病気はいくらでもあるし、それを全てワクチン接種で予防していくことなんてできないから、IMDを特別予防しなければいけない納得できる理由が知りたい。
- ・なぜ国内で承認されているワクチンがないか知りたい。他の先進国の状況も知りたいと思う。
- ・やはり接種時のリスクがとても心配。子宮頸がんワクチンのように高い確率でリスクを伴うならもっと検討しないとならないので、ここで打つか否かを判断できません。本音は接種させたいけど、でも、予防のためのワクチンでハイリスクで副作用が出るようならとても怖い。
- ・ワクチンをすることで、体に起こる副作用など反応が気になります。子供がアレルギー体質なので。

【あまり接種したくない】

- ・ワクチン接種が予防する上で重要なのはわかるが、ワクチンは大丈夫なのか心配だから。
- ・ワクチンが開発されてすぐは副作用が強かったり、その情報が十分になかったりする。かかる確率が低い病気にならないためにワクチンで健康を害することがあるのは本当に嫌だ。子宮頸がんの二の舞にならない保証は無い
- ・ワクチンを作るのは大切だと思います。今の時点では、よくわからない病気とワクチンに関して、接種することはできません。
- ・海外からくるウイルスでまだ身近ではなくさらに国内で承認されてないワクチンで信憑性に欠ける部分が多く不安

【全く接種したくない】

- ・ワクチンの安全性が分からなければ怖いと思うし、ワクチンを打ったところでまた他の病気が流行り、ワクチンを打ち続ける方が怖い
- ・法に反することはしないが、個人の責任において判断できる場合は、極力、接種させたくないし、自分も接種したくない。
- ・IMDという病気はとっても怖い病気だとは思いますが、しかし、今健康であるのに、ワクチンを接種して、万が一ワクチンの後遺症が出たら、後悔しても悔やまれるから、私は予防ワクチンは接種したくありません。体に入れて拒否反応が出るのは、接種した後でしか分らないと思っております。人類みんな同じ身体ではないと思っております。

【Q14】ワクチンの接種を検討する際に、知っておきたい情報はありますか。（複数回答）

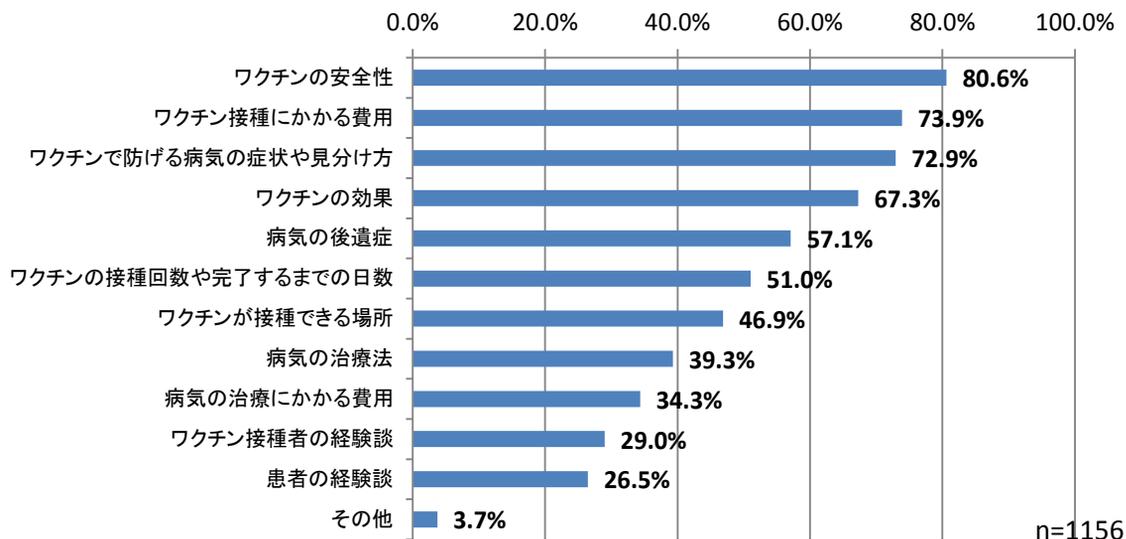
「安全性」が最も多く80%以上の母親が知っておきたいと回答した。次いで「費用」「防げる病気の症状や見分け方」「効果」の順になった。

n=1156

(MA)

	n	%
ワクチンの安全性	932	80.6%
ワクチン接種にかかる費用	854	73.9%
ワクチンで防げる病気の症状や見分け方	843	72.9%
ワクチンの効果	778	67.3%
病気の後遺症	660	57.1%
ワクチンの接種回数や完了するまでの日数	590	51.0%
ワクチンが接種できる場所	542	46.9%
病気の治療法	454	39.3%
病気の治療にかかる費用	397	34.3%
ワクチン接種者の経験談	335	29.0%
患者の経験談	306	26.5%
その他	43	3.7%
総数	1156	582.5%

**ワクチンの接種を検討する際に知っておきたい情報
（複数回答）**



【Q15】誰に勧められたらワクチン接種を検討しようと思いますか。(複数回答)

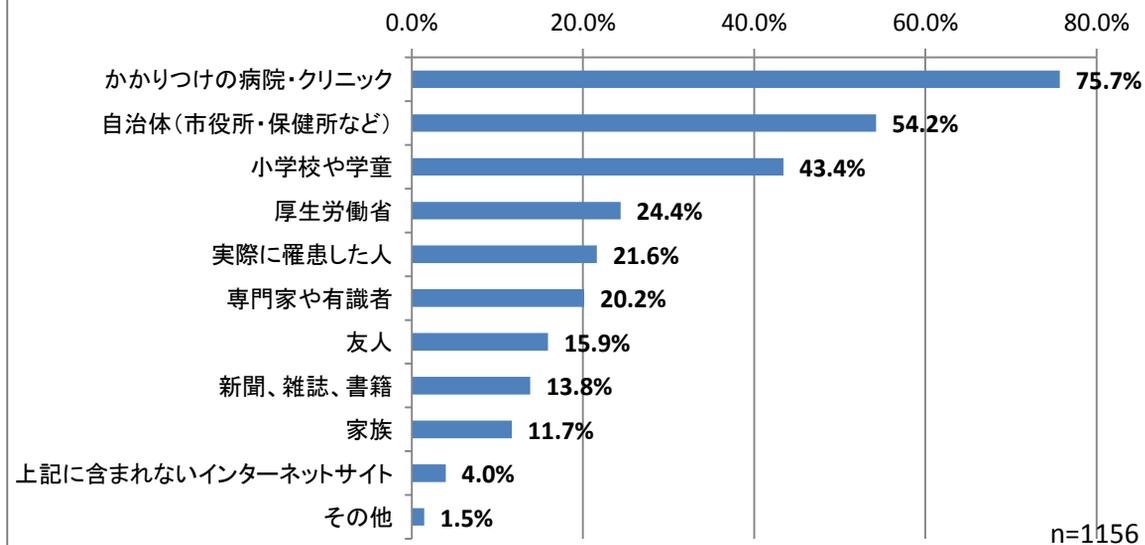
「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く75.7%。次いで「自治体」「小学校や児童」「厚生労働省」だった。

n=1156

(MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	875	75.7%
自治体(市役所・保健所など)	627	54.2%
小学校や学童	502	43.4%
厚生労働省	282	24.4%
実際に罹患した人	250	21.6%
専門家や有識者	233	20.2%
友人	184	15.9%
新聞、雑誌、書籍	160	13.8%
家族	135	11.7%
上記に含まれないインターネットサイト	46	4.0%
その他	17	1.5%
総数	1156	286.4%

誰に勧められたらワクチン接種を検討するか
(複数回答)



【Q16】ワクチン接種に関する情報は、どこから得るのが最も信頼が高いと思いますか。(複数回答)

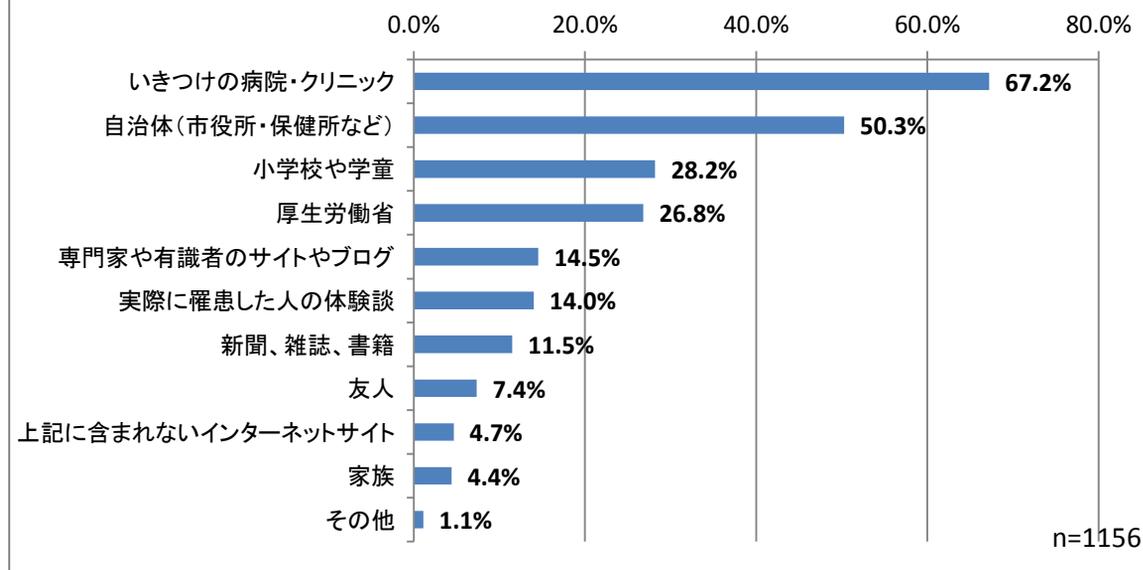
「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く67.2%。次いで、「自治体」「小学校や学童」「厚生労働省」となった。

n=1156

(MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	777	67.2%
自治体(市役所・保健所など)	581	50.3%
小学校や学童	326	28.2%
厚生労働省	310	26.8%
専門家や有識者のサイトやブログ	168	14.5%
実際に罹患した人の体験談	162	14.0%
新聞、雑誌、書籍	133	11.5%
友人	85	7.4%
上記に含まれないインターネットサイト	54	4.7%
家族	51	4.4%
その他	13	1.1%
総数	1156	230.1%

ワクチン接種に関する情報はどこから得るのが信頼が高いと思うか(複数回答)



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴
TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

**大学・専門学校・予備校1年生対象
侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD)
予防ワクチン接種に関するアンケート調査
結果報告書**

平成26年4月24日

株式会社QLife (キューライフ)

調査の背景

日本人にとって新たな脅威として警戒が必要な感染症に侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)がある。IMDは、10代が罹患する可能性が高いとされる病気で、その初期症状は、吐き気や倦怠感など風邪の症状と似ており診断が難しい。罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性がある。罹患率は低いものの重篤性が高く、回復した場合にも約11～19%の割合で四肢麻痺、難聴、けいれん発作、または精神運動遅延などの生涯続く後遺症が残る。人から人への飛沫・接触感染で広がり、寮等での集団生活や人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなる疾患だ。世界全体では毎年30万人の患者が発生。特に、髄膜炎ベルトとよばれるアフリカ中央部において発生が多く、3万人の死亡例が出ている。ところが近年、わが国を含め、先進国でも散発的な感染が確認されており、特定地域における風土病としてではなく、どこの国においても対策が必要な疾患として、理解を深める必要がある。

わが国においては、1945年前後には4000例を超える患者がいたが、その後、減少し、1999年以降は、年間7～21件の発生に留まっていた。しかし、2011年5月、宮崎県の実業高等学校で集団感染が発生、4名が発症し、1名が死亡、保菌者は8名に上った。国内での集団発生を重く見た文部科学省は、2012年4月、学校保健安全法第18条に定められる「学校で予防すべき感染症」第二種に、IMDの代表的症状である「髄膜炎菌性髄膜炎」を追加。さらに2013年4月の感染症法の改定で、全数報告対象となる第5類感染症に規定される疾患が、従来の髄膜炎菌性髄膜炎から、髄膜炎菌を起炎とする髄膜炎・有症状の菌血症・敗血症などを含めた「侵襲性髄膜炎菌感染症」に拡大された。対象疾患が増えたこともあり、2013年4月から2014年3月までの報告件数は32件と、2012年度1年間の報告件数13件から倍増している。

10代の感染リスクが高いとされるIMDは、保菌者の中で、なぜ特定の人だけが発症するのかなど、IMDの発症メカニズムはまだ解明されていないが、予防にはワクチンが有効であることが分かっている。現在のところ、国内で承認されたワクチンはないが、海外では既に米国やカナダをはじめとする多くの国でIMD予防ワクチンが使用されており、国内でもワクチンの導入が期待されている。

そこで、QLifeでは、大学・専門学校の1年生のIMDの感染リスクが高い本人に調査を行い、髄膜炎ワクチンに関する意識調査を行った。なお、同時に本人／家族がリスクの高い海外渡航経験者ならびに小学5、6年生を持つ母親の調査も行っている。

主な結論

大学や専門学校への入学は、生徒にとってその交友や移動の範囲が大きく広がるライフイベントの1つであると同時に、感染症などの疾患リスクが高まるきっかけともいえる。今回、母子手帳や自治体からの連絡などで、罹患しやすい疾患が分かる乳幼児期とは異なり、10代の青少年が罹患しやすい疾患について、あまり情報が提供されていないように推察される。その1つであるIMDについても同様だ。海外旅行や海外留学などの情報収集や準備が必要なライフイベントはもちろん、寮生活や人の多い場所など日本国内でも感染リスクがあり、さらに重篤な症状になってしまうこの病気について、半数以上が「全く知らない」と回答。その予防意識はそれほど高くはなかった。しかし、「病気を知る」ことでワクチン接種の意向が大きく押し上げられたことから、自治体や学校による積極的な情報提供が求められる。

結論の概要

1) 半数弱の生徒が海外留学の経験「あり」もしくは「機会があればしてみたい」

7.1%が海外留学の経験あり。未経験者の約半数が海外留学予定ありもしくは機会があれば積極的にしてみたい。

2) IMDについて「よく知っている」4.4%「ワクチンで予防できることを知っている」10.8%

IMDについて、59.3%の生徒が「全く知らなかった」と回答。約9割の生徒がワクチンによって予防できる病気であることを「知らない」。

3) 9割以上の生徒がIMDを「非常に怖い」「やや怖い」病気と認識

10代が罹患する可能性が高い病気であることに強い共感。IMDに対するワクチン接種についても9割以上の生徒が「重要」「やや重要」と回答。

4) IMDワクチン「とても接種したい」「やや接種したい」80.3%

IMDの詳細な情報を知る前と比較して、「とても接種したい」26.8ポイント増加。「あまり接種したくない」「全く接種したくない」6.3ポイント減少。

5) ワクチン接種「費用」「安全性」を知りたい。情報源は「かかりつけの病院・クリニック」「自治体」から信頼性高い

ワクチン接種の検討のきっかけは「かかりつけの病院・クリニック」「家族」に勧められることが多数に。

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 大学・専門学校・予備校の1年生
- (2) 有効回収数: 563人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2013/11/27 ~2013/12/8

▼有効回答者の属性

(1) 性別:

	n	%
男性	236	41.9%
女性	327	58.1%
総数	563	100.0%

(2) 居住地:

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
5.3%	1.4%	0.7%	2.0%	0.2%	0.5%	1.2%	1.1%	0.7%	1.4%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
9.4%	3.6%	13.9%	7.5%	1.1%	0.4%	1.2%	0.5%	0.9%	2.0%
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1.2%	1.6%	4.4%	1.1%	1.2%	3.4%	8.7%	4.4%	0.9%	0.2%
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.9%	0.0%	1.6%	2.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.4%	0.4%	4.3%
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県			
1.1%	0.5%	1.1%	1.2%	1.2%	0.4%	0.9%			

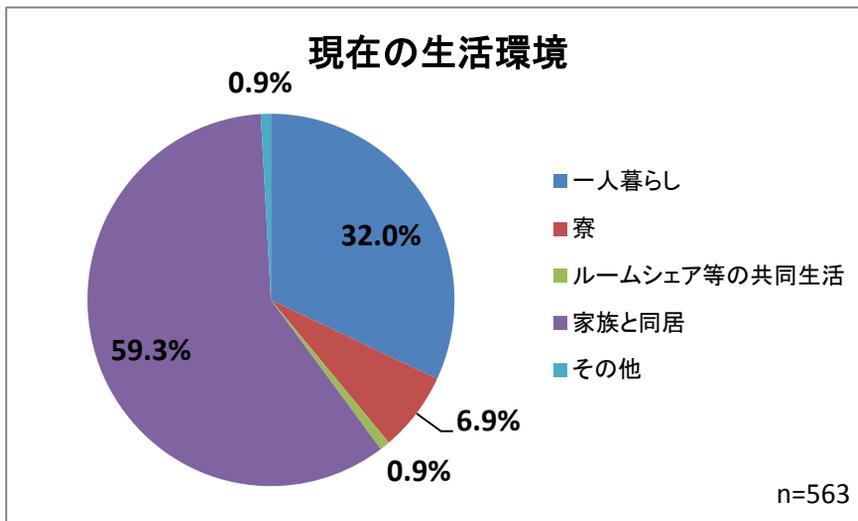
【Q1】現在の生活環境を教えてください。

「家族と同居」が最も多く59.3%。以下、「一人暮らし」(32.0%)、「寮」(6.9%)となった。

n=563

(SA)

	n	%
一人暮らし	180	32.0%
寮	39	6.9%
ルームシェア等の共同生活	5	0.9%
家族と同居	334	59.3%
その他	5	0.9%
総数	563	100.0%



【Q2】通っている学校の環境について、当てはまるもの全てを選んでください。(複数回答)

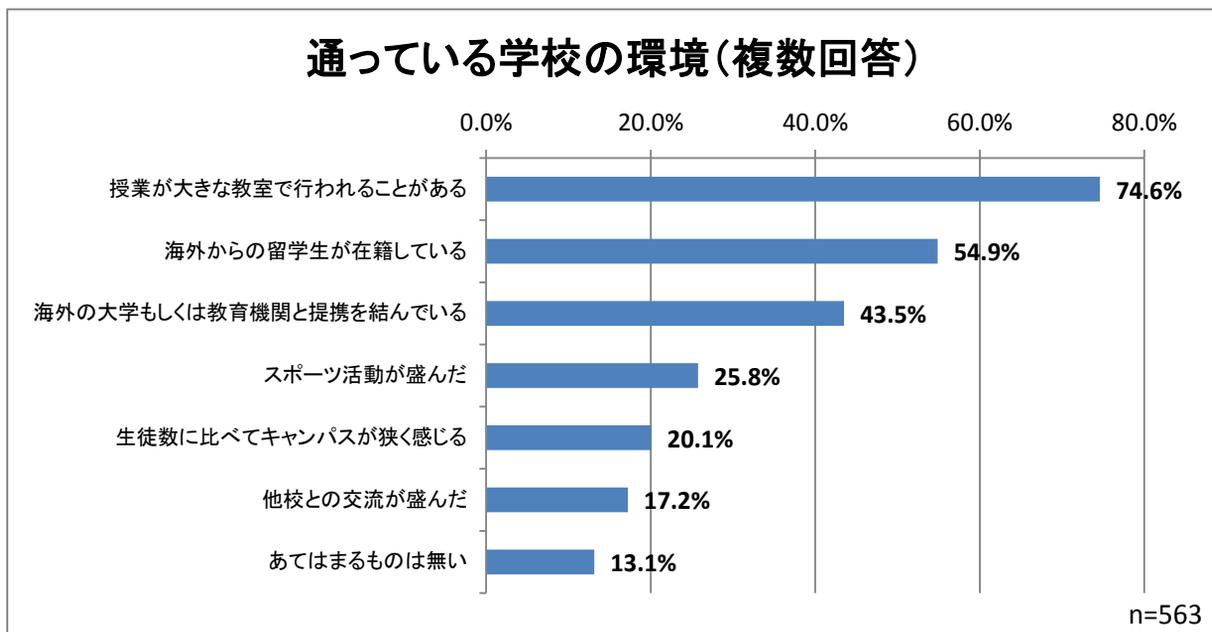
74.6%が「授業が大きな教室で行われる」と回答したほか、約半数が「海外からの留学生が在籍している」「海外の教育機関と提携を結んでいる」と回答。国内外を問わず多くの人と接触する機会があることが推察される。

n=563

(MA)

	n	%
授業が大きな教室で行われることがある	420	74.6%
海外からの留学生が在籍している	309	54.9%
海外の大学もしくは教育機関と提携を結んでいる	245	43.5%
スポーツ活動が盛んだ	145	25.8%
生徒数に比べてキャンパスが狭く感じる	113	20.1%
他校との交流が盛んだ	97	17.2%
あてはまるものは無い	74	13.1%
総数	563	249.2%

通っている学校の環境(複数回答)



【Q3】あなた自身について当てはまるものを全て選んでください。(複数回答)

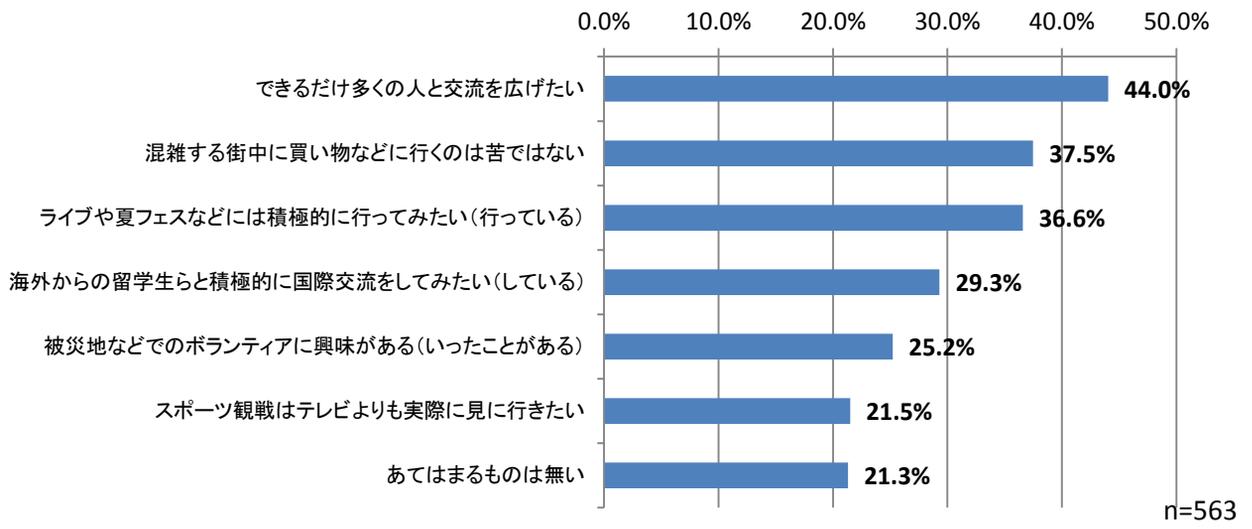
周囲の人々との交流意欲も積極的で、不特定多数の人との接触の可能性は高い。

n=563

(MA)

	n	%
できるだけ多くの人と交流を広げたい	248	44.0%
混雑する街中に買い物などに行くのは苦ではない	211	37.5%
ライブや夏フェスなどには積極的に行ってみたい(行っている)	206	36.6%
海外からの留学生らと積極的に国際交流をしてみたい(している)	165	29.3%
被災地などでのボランティアに興味がある(いったことがある)	142	25.2%
スポーツ観戦はテレビよりも実際に見に行きたい	121	21.5%
あてはまるものは無い	120	21.3%
総数	563	215.5%

自身について当てはまるもの(複数回答)



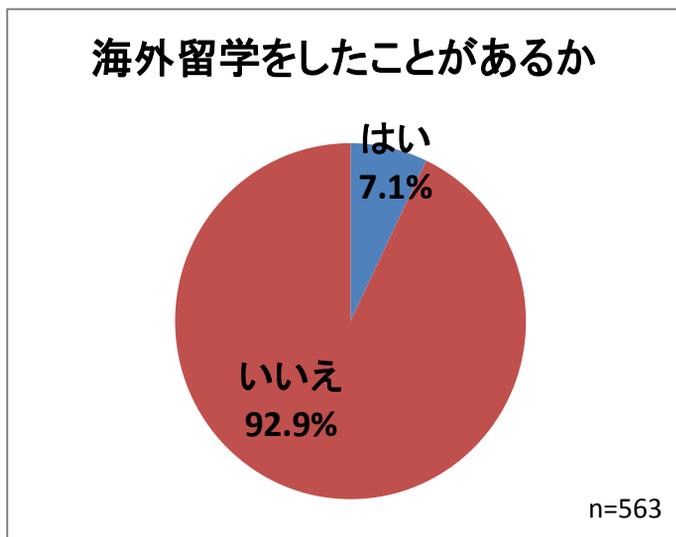
【Q4】海外留学をしたことがありますか。

7.1%が海外留学を経験している。

n=563

(SA)

	n	%
はい	40	7.1%
いいえ	523	92.9%
総数	563	100.0%



【Q5】海外留学をしてみたい気持ちや予定はありますか。(Q4で「いいえ」と答えた人のみ回答)

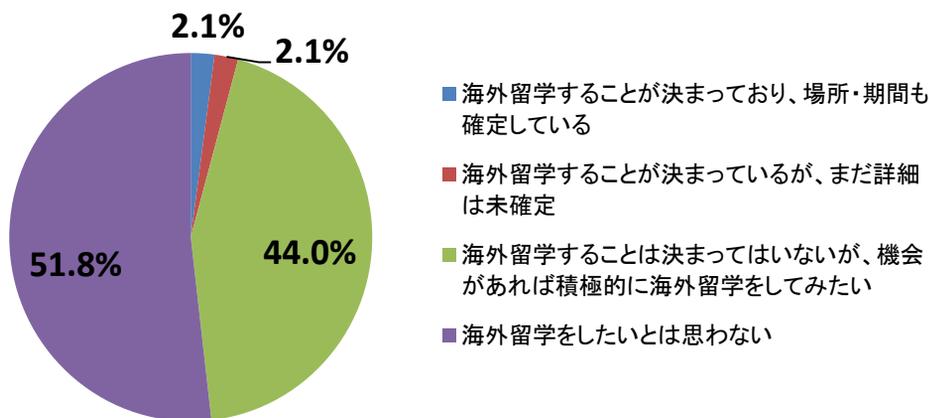
海外留学することが決まっているのは4.2%だが、「機会があれば積極的に海外留学をしてみたい」と考える生徒が半数近くいた。

n=523

(SA)

	n	%
海外留学することが決まっており、場所・期間も確定している	11	2.1%
海外留学することが決まっているが、まだ詳細は未確定	11	2.1%
海外留学することは決まっていないが、機会があれば積極的に海外留学をしてみたい	230	44.0%
海外留学をしたいとは思わない	271	51.8%
総数	523	100.0%

海外留学をしてみたい気持ちや予定はあるか



n=523

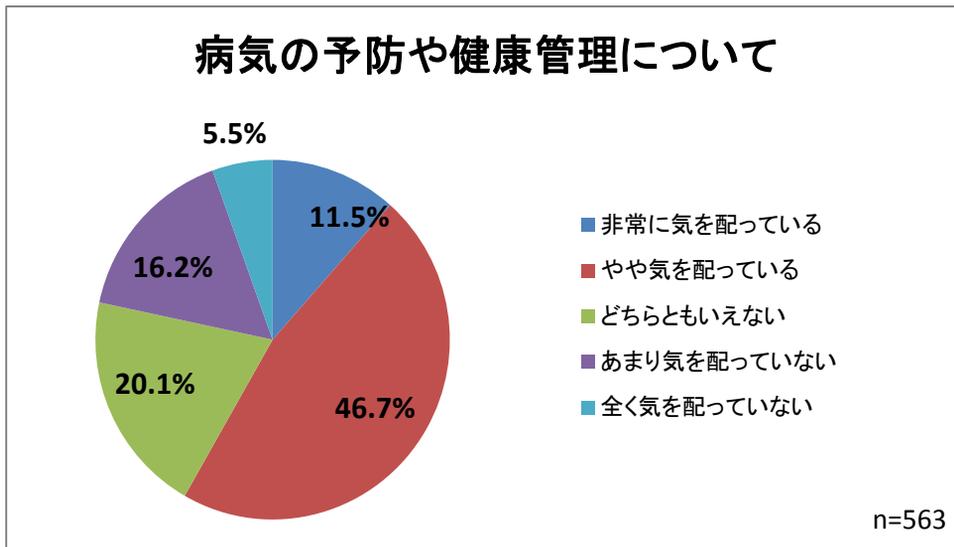
【Q6】病気の予防や健康管理について、最も近いものをお教えてください。

58.2%の生徒が「非常に」「やや」気を配っていると回答。一方「あまり」「全く」気を配っていない生徒は21.7%だった。

n=563

(SA)

	n	%
非常に気を配っている	65	11.5%
やや気を配っている	263	46.7%
どちらともいえない	113	20.1%
あまり気を配っていない	91	16.2%
全く気を配っていない	31	5.5%
総数	563	100.0%



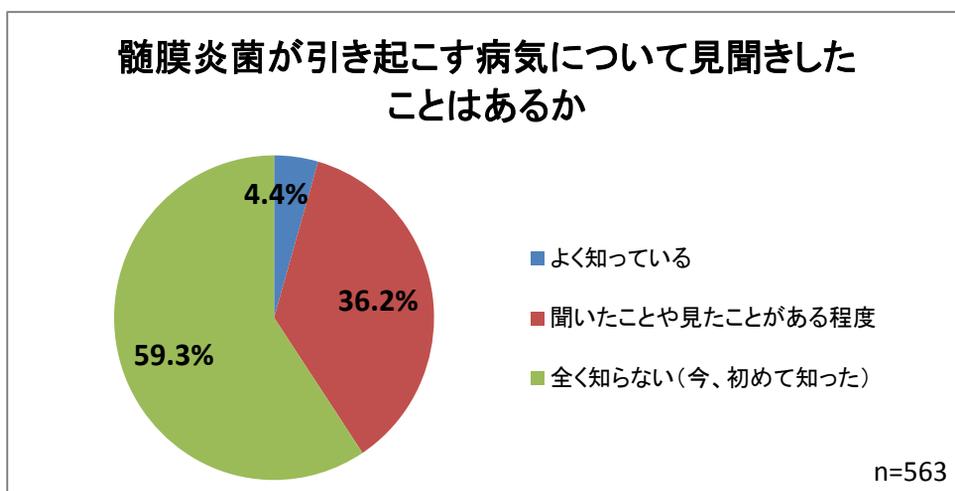
【Q7】髄膜炎菌が引き起こす病気について、見聞きしたことはありますか。

半数以上の生徒が髄膜炎菌が引き起こす病気について「全く知らない」と回答。一方「知っている」と回答した生徒も多くは「聞いたことや見たことがある程度」で、「よく知っている」としたのは全体の4.4%だった。

n=563

(SA)

	n	%
よく知っている	25	4.4%
聞いたことや見たことがある程度	204	36.2%
全く知らない(今、初めて知った)	334	59.3%
総数	563	100.0%



【Q8】IMD(=侵襲性髄膜炎菌感染症:髄膜炎菌が引き起こす病気を総称してこう呼びます)は、ワクチンによって予防できる病気です。このことをご存じでしたか。

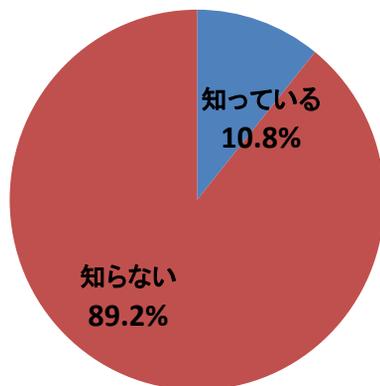
約9割の生徒が「知らない」と回答した。

n=563

(SA)

	n	%
知っている	61	10.8%
知らない	502	89.2%
総数	563	100.0%

IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)が
ワクチンによって予防できる病気であることを
知っていたか



n=563

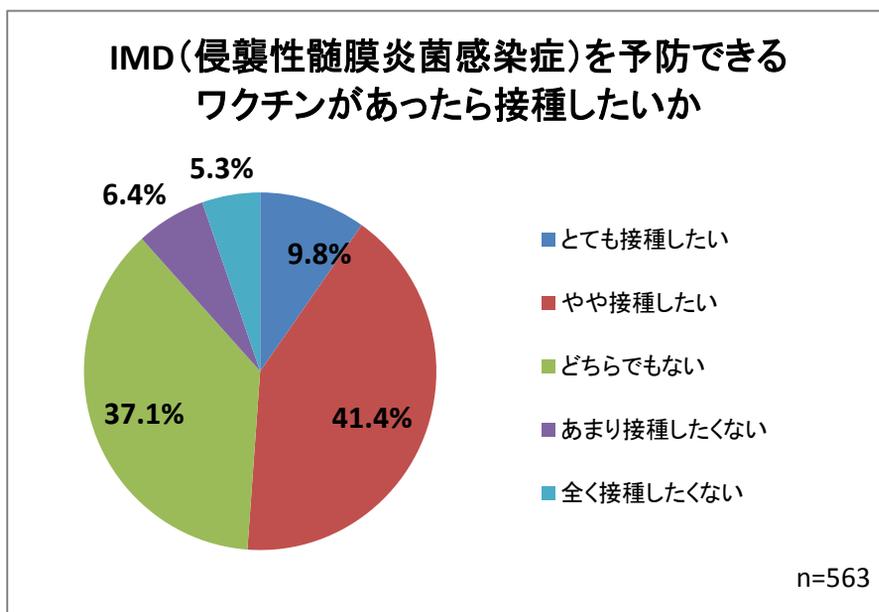
【Q9】IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)を予防できるワクチンがあったら接種したいですか。

約半数の生徒が「とても」「やや」接種したいと回答。一方、接種に否定的な生徒は1割強だった。

n=563

(SA)

	n	%
とても接種したい	55	9.8%
やや接種したい	233	41.4%
どちらでもない	209	37.1%
あまり接種したくない	36	6.4%
全く接種したくない	30	5.3%
総数	563	100.0%



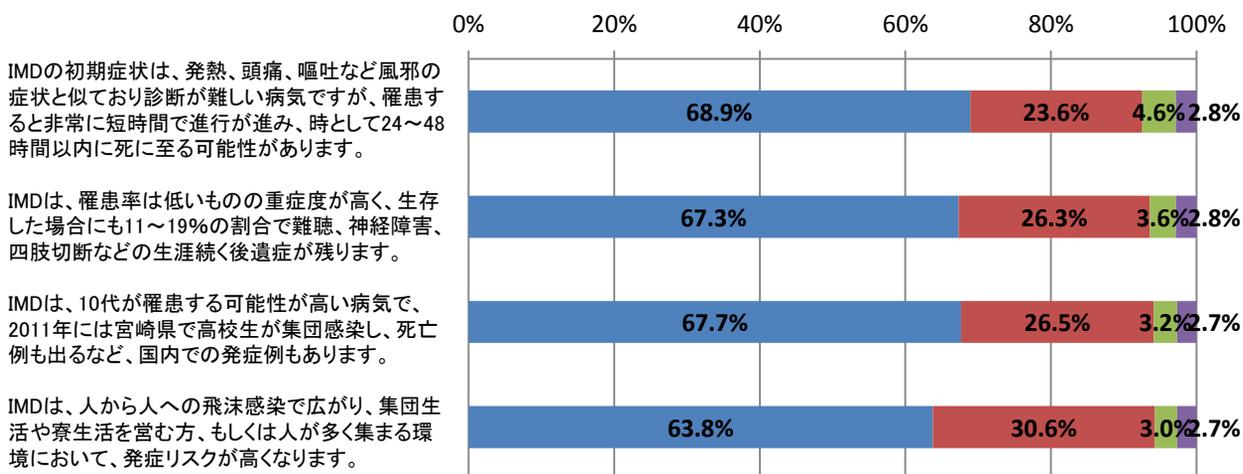
【Q10】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。

全説明において、9割以上の生徒がIMDに対し「非常に」「やや」怖い病気だと思う、と回答。「怖い病気だと思う」と回答した比率が最も高かったのは、回答者と同年代が罹患する可能性が高いことを伝えた「10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります」だった。

	IMDは「非常に怖い」病気だと思う	IMDは「やや怖い」病気だと思う	IMDは「それほど怖くない」病気だと思う	IMDは「全く怖くない」病気だと思う	n	IMDは「非常に怖い」病気だと思う	IMDは「やや怖い」病気だと思う	IMDは「それほど怖くない」病気だと思う	IMDは「全く怖くない」病気だと思う	%
IMDの初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など風邪の症状と似ており診断が難しい病気ですが、罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性があります。	388	133	26	16	563	68.9%	23.6%	4.6%	2.8%	100.0%
IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。	379	148	20	16	563	67.3%	26.3%	3.6%	2.8%	100.0%
IMDは、10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります。	381	149	18	15	563	67.7%	26.5%	3.2%	2.7%	100.0%
IMDは、人から人への飛沫感染で広がり、集団生活や寮生活を営む方、もしくは人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなります。	359	172	17	15	563	63.8%	30.6%	3.0%	2.7%	100.0%

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの

- IMDは「非常に怖い」病気だと思う
- IMDは「やや怖い」病気だと思う
- IMDは「それほど怖くない」病気だと思う
- IMDは「全く怖くない」病気だと思う



【Q11】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。

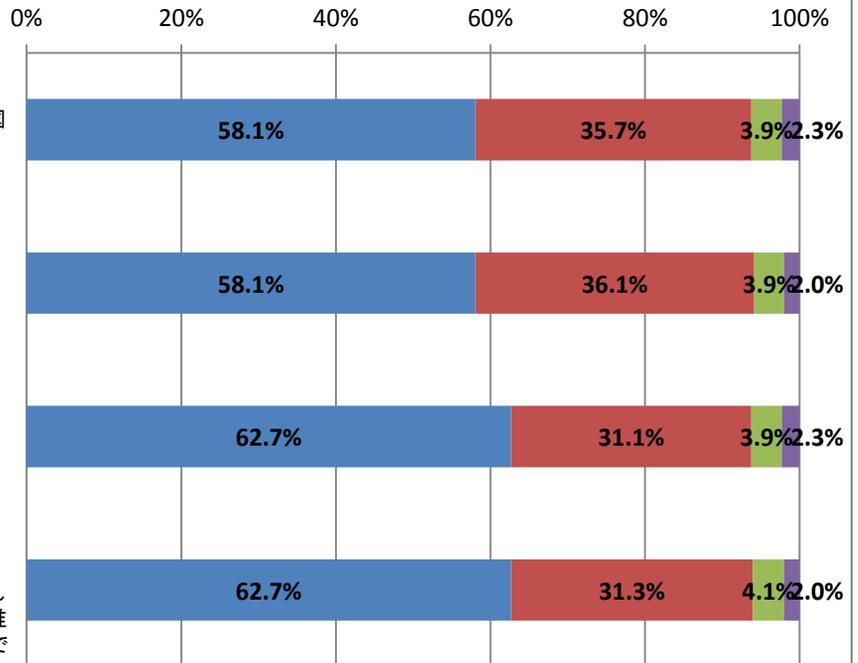
全説明において、9割以上の生徒がIMDに対するワクチン接種について「重要」「やや重要」と回答した。最も「重要」であると回答した比率が高かったのが「IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。」という説明だった。

	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	n	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	%
IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。	327	201	22	13	563	58.1%	35.7%	3.9%	2.3%	100.0%
IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。	327	203	22	11	563	58.1%	36.1%	3.9%	2.0%	100.0%
IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。	353	175	22	13	563	62.7%	31.1%	3.9%	2.3%	100.0%
IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。	353	176	23	11	563	62.7%	31.3%	4.1%	2.0%	100.0%

【Q11】 IMDについて知って自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(つづき)

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの (IMDに対する予防ワクチンの重要性)

- IMDに対するワクチン接種は重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない
- IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない



IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。

IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。

IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。

IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。

【Q12】前問までの内容を踏まえて、IMDを予防するワクチンが接種できるとして、あなたの気持ちに最も近いものを教えてください。

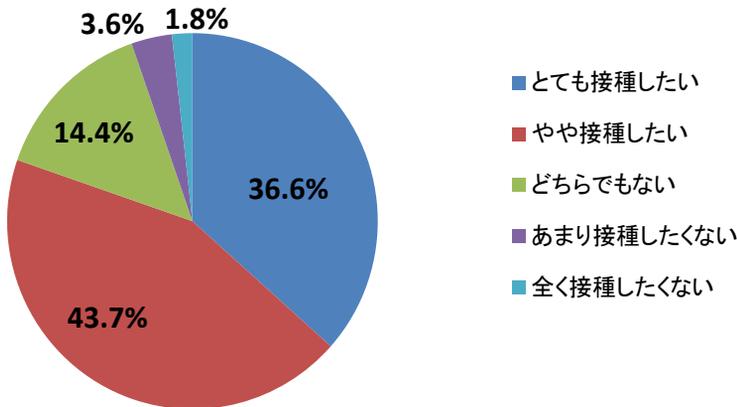
IMDについて説明した後のワクチン接種意向について、約8割の生徒が「とても」「やや」接種したい、と回答した。説明前に接種意向を尋ねたQ9と比較すると、「とても接種したい」は9.8%→36.6%と26.8ポイントの大幅な増加、「やや接種したい」は41.4%→43.7%、「あまり接種したくない」「全く接種したくない」の合計は11.7%→5.4%と6.3ポイント減少した。

n=563

(SA)

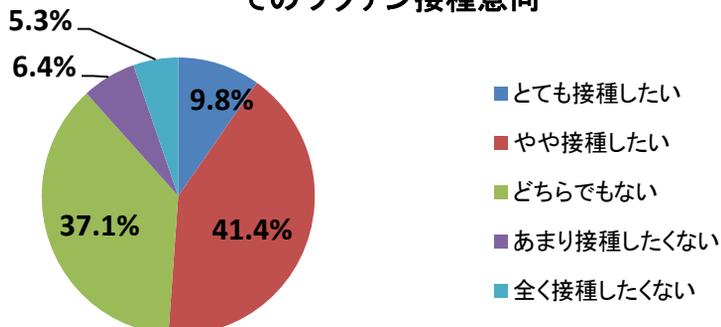
	n	%
とても接種したい	206	36.6%
やや接種したい	246	43.7%
どちらでもない	81	14.4%
あまり接種したくない	20	3.6%
全く接種したくない	10	1.8%
総数	563	100.0%

前問までの内容を踏まえて IMDを予防するワクチンを接種したいと思うか



n=563

(参考)Q9 IMDに関する情報を知らない状態 でのワクチン接種意向



n=563

【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。

接種意向別に代表的なコメントを列記する。

【とても接種したい】

- ・一人暮らしで、万が一かかってしまったときのことを思うと病院通いなどが大変だと思うので予防接種を受けておきたいと思う
- ・大学などの多くの人が集まる場所に行くことがあるので万が一の時のために接種しておいた方がよいと思ったから。
- ・自身が10代であり例え死ななくても後遺症があるということなので、出来るだけ最初で感染の確立を低くしたい
- ・説明を聞いて、とても怖い病気で、日本でも死に至る人がいるほどの病気だから。感染して治療しても後遺症が残る可能性が高いし、海外では指定の予防接種にもなっているから。
- ・現在通っている大学は海外からの留学生も多く、また、登下校の際に利用している公共交通は大変込み合うため、どこでどんな病気をもらってくるか分からなくて、非常に怖いなど感じ、対策が取れるのなら取っておきたいと感じたから。
- ・若いうちは病気になりづらいのであまり考える機会がなく知らなかったが、自分や周りの人のためにも出来るならしたいと思った。
- ・症状で最悪の場合死に至るものは出来るだけワクチン接種をしておきたいからです。生存したとしても後遺症が結構痛いものでもないと認識出来ましたし。病気に罹りにくい状態を作れるのであれば、ぜひ進んでそれを実行すべきだと思ったからです。
- ・飛沫感染するということで、いつ、誰が感染してもおかしくないから。また、私は通学するときに電車を利用してあるので、人ごみの中で感染する可能性があると思うから。
- ・海外留学を計画している私にとって、他人ごとではない病気だとおもったから
- ・感染すれば死に至る、または生存しても後遺症が残る可能性がある病気であるのならば、予防しておくに越したことはないと思う。感染してから後悔するよりは、多少なりお金を出しても予防しておけば安心である。ただ、国内で承認されたワクチンがまだないというのが不安。何故なのかが知りたい。
- ・IMDにかかって自分が苦しむだけならいいが、他の人につまず可能性があるし、死に至る可能性もあるので、自分を守るためだけでなく人に迷惑をかけないためにも予防接種は必要だと思う。
- ・IMD予防接種をすることで、自らの感染も抑えられ、かつ、自らが感染しないことで、周りへの感染源になる事も回避できる。また、インフルエンザ予防接種ワクチンのように一般化すれば、国内での感染、集団感染が減る。また、近年グローバル化が進み、多国籍の方と接触する場合、予防接種していれば、感染もしなければ、感染源にもならない。以上の理由により、私はIMD予防接種をしたいと、強く願う。

【やや接種したい】

- ・海外へ渡航する際や流行したときには接種しておきたいと思うが、ワクチンはむやみに打てば良いという物でもないと思うので、判断が難しい。
- ・想像以上に怖い病気なようなので、受けたい気持ちは出てきたが、副作用も心配。
- ・自分は外国には行かないと思うが、行った人が国内へ持ち帰ってくる可能性が高いので、予防する方が良いと思う
- ・予防したいのはやまやまだが、お金がないから難しい。
- ・予防できるのであれば予防しておくことが大切であり、感染を考えると周囲への感染拡大を未然に防ぐためにも接種しておくことが必要だと考えるため
- ・日頃さまざまな人と接しているのでも、感染して学校に行けなくなるのが怖いので。
- ・怖い病気だから予防接種したいが、副作用が心配です。十分に研究を重ね、日本人に打っても大丈夫かを確認してから打ちたいです。
- ・いつ日本中に広まるか分からないうえ、今後外国人の方と関わることも増えると思うから。
- ・感染してしまってからでは、死亡してしまう可能性があったり、後遺症が残ることがあったりするということなので遅いと思うから。また、今察に入っていて、インフルエンザやノロウイルスが流行した時の感染の怖さを知っているから。だけど、国内では承認されているワクチンがないということなので、予防接種を受けたいけど現実的には難しいと思うから。
- ・自分が考えている以上に、罹患すると深刻な病気であり、治療したとしても後遺症が残る可能性があるため事前の予防が重要であると考えた。しかし、ワクチンの有効性や受ける回数、料金、副作用などについてあまり知らないため「やや接種したい」にした。

【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。(続き)

【どちらでもない】

- ・誰にでも、本当に効果があるかの確証がまだ持てないので
 - ・注射をする為に日をあけてかつ病院という、行ってから帰宅するまでの時間の掛かる場所に行くのは面倒だから。
 - ・国内での発症がそれほど多いとは思っていないので、海外などに行くことが決定した際は接種が必要かと思う
 - ・副作用が心配。子宮頸がんワクチンのように接種後に失神を起こす人が通常より非常に多かったり、他にも重大な副作用を起こす可能性が高い場合は受けたいとは思わない。そうでない場合は受けたいと思う。
 - ・身の回りでIMDIに罹患した人をみたことないため
 - ・確かに恐ろしい病気なのでワクチン接種もしたいがワクチンの副作用が心配。ワクチンは重要だが早期に導入してほしいとは思わない。またワクチン接種するためにかかるお金もかかりそう。お金がかかるようならやむなく接種を諦めると自分は思う。
- もう少し情報が入ってきて ワクチンそのものが安心だと思えれば考えたい。料金も気になる
- ・感染するのは怖いですが、感染率が低いのであまり必要性を感じないから。また、金額が高ければなくてもいいかなと思う。

【あまり接種したくない】

- ・それほど流行っているとは思えない。感染の機会には自分には低い気がする
- ・ワクチンを接種することによるメリットは良く分かったが、副作用の心配がないのか不安だから
- ・「ワクチンは国内では認められたものでない」というような記述があったので、やはり日本人に合うようなものでないと逆に麻痺などを引き起こすかもしれないのではないかと思ったからです。
- ・無縁に感じたから
- ・コストが高そう

【全く接種したくない】

- ・注射が嫌いだから
- ・めんどい
- ・お金がかかるから、副作用も心配

【Q14】ワクチンの接種を検討する際に、知っておきたい情報はありますか。(複数回答)

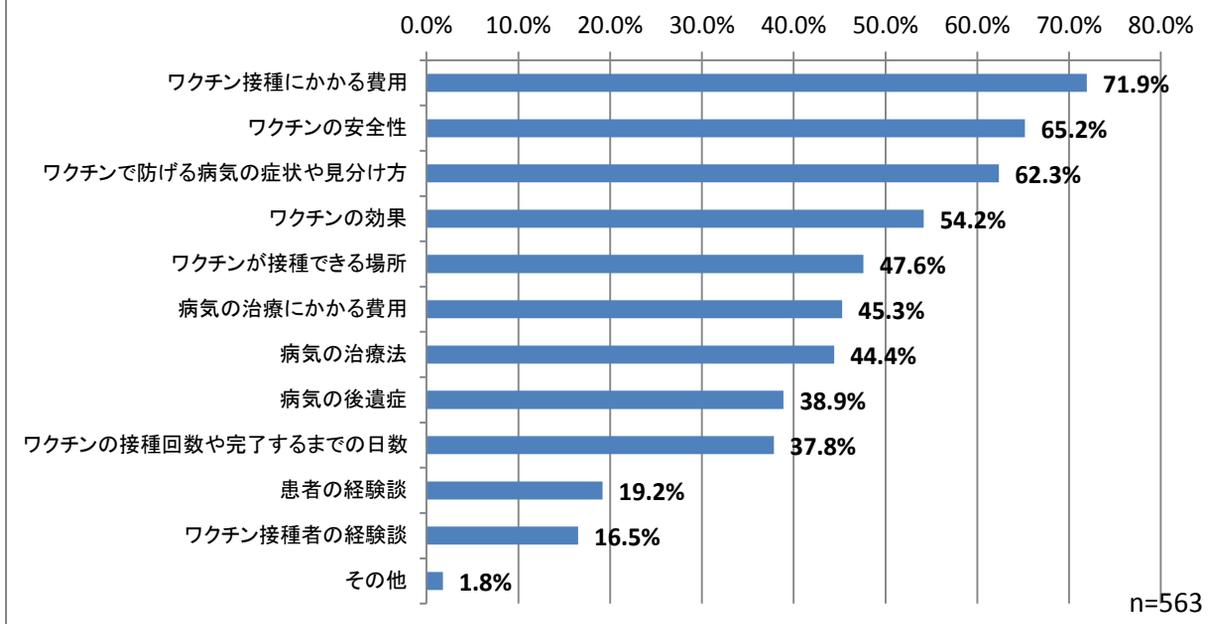
「接種にかかる費用」が最も多く71.9%となった。次いで、「安全性」「防げる病気の症状や見分け方」「効果」の順となった。

n=563

(MA)

	n	%
ワクチン接種にかかる費用	405	71.9%
ワクチンの安全性	367	65.2%
ワクチンで防げる病気の症状や見分け方	351	62.3%
ワクチンの効果	305	54.2%
ワクチンが接種できる場所	268	47.6%
病気の治療にかかる費用	255	45.3%
病気の治療法	250	44.4%
病気の後遺症	219	38.9%
ワクチンの接種回数や完了するまでの日数	213	37.8%
患者の経験談	108	19.2%
ワクチン接種者の経験談	93	16.5%
その他	10	1.8%
総数	563	505.2%

ワクチンの接種を検討する際に、知っておきたい情報 (複数回答)

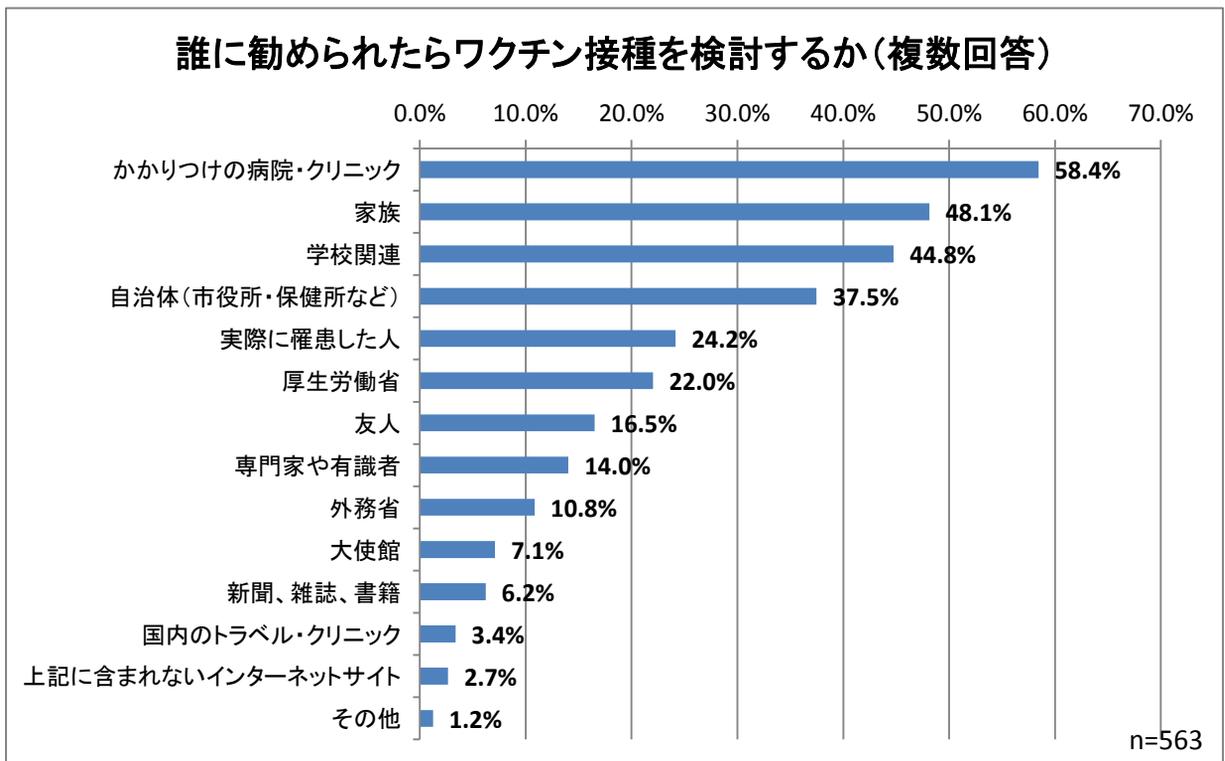


【Q14】誰に勧められたらワクチン接種を検討しようと思いますか。(複数回答)

「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く58.4%の生徒が回答。次いで、「家族」「学校関連」「自治体」の順となった。

n=563 (MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	329	58.4%
家族	271	48.1%
学校関連	252	44.8%
自治体(市役所・保健所など)	211	37.5%
実際に罹患した人	136	24.2%
厚生労働省	124	22.0%
友人	93	16.5%
専門家や有識者	79	14.0%
外務省	61	10.8%
大使館	40	7.1%
新聞、雑誌、書籍	35	6.2%
国内のトラベル・クリニック	19	3.4%
上記に含まれないインターネットサイト	15	2.7%
その他	7	1.2%
総数	563	297.0%



【Q15】ワクチン接種に関する情報は、どこから得るのが最も信頼が高いと思いますか。(複数回答)

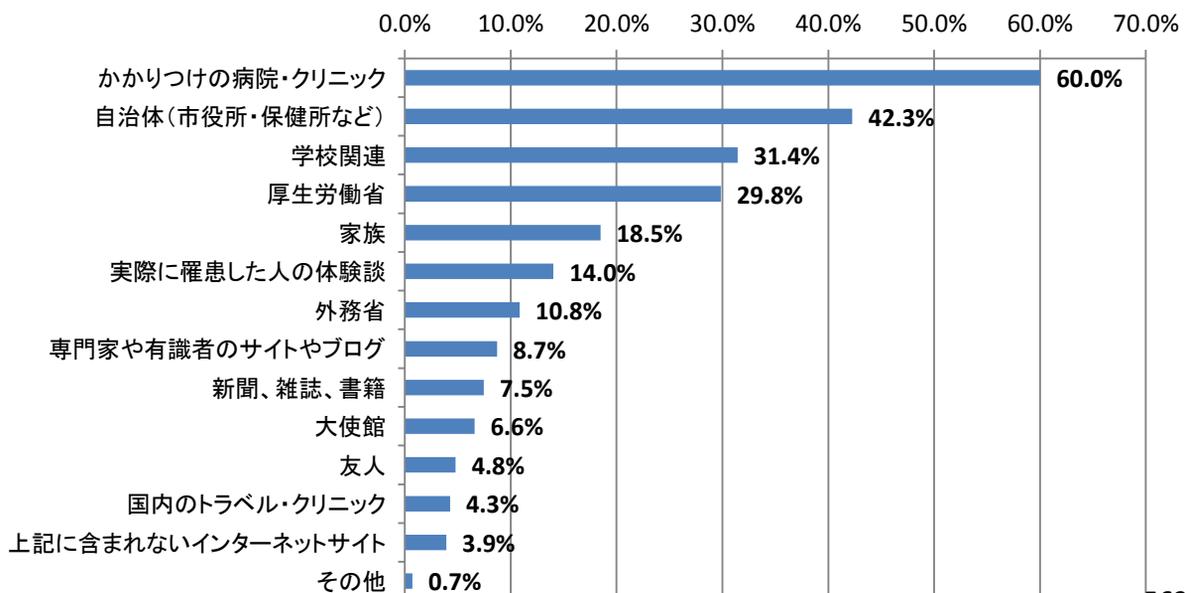
信頼性の高い情報源については、「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く60.0%となった。次いで「自治体」「学校関連」「厚生労働省」の順となった。

n=563

(MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	338	60.0%
自治体(市役所・保健所など)	238	42.3%
学校関連	177	31.4%
厚生労働省	168	29.8%
家族	104	18.5%
実際に罹患した人の体験談	79	14.0%
外務省	61	10.8%
専門家や有識者のサイトやブログ	49	8.7%
新聞、雑誌、書籍	42	7.5%
大使館	37	6.6%
友人	27	4.8%
国内のトラベル・クリニック	24	4.3%
上記に含まれないインターネットサイト	22	3.9%
その他	4	0.7%
総数	563	243.3%

ワクチン接種に関する情報はどこから得るのが信頼が高いと思うか(複数回答)



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴

TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

**海外渡航経験者対象
侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)
予防ワクチン接種に関するアンケート調査
結果報告書**

平成26年4月24日

株式会社QLife(キューライフ)

調査の背景

日本人にとって新たな脅威として警戒が必要な感染症に侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD) がある。IMDは、10代が罹患する可能性が高いとされる病気で、その初期症状は、吐き気や倦怠感など風邪の症状と似ており診断が難しい。罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性がある。罹患率は低いものの重篤性が高く、回復した場合にも約11～19%の割合で四肢麻痺、難聴、けいれん発作、または精神運動遅延などの生涯続く後遺症が残る。人から人への飛沫・接触感染で広がり、寮等での集団生活や人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなる疾患だ。世界全体では毎年30万人の患者が発生。特に、髄膜炎ベルトとよばれるアフリカ中央部において発生が多く、3万人の死亡例が出ている。ところが近年、わが国を含め、先進国でも散発的な感染が確認されており、特定地域における風土病としてではなく、どこの国においても対策が必要な疾患として、理解を深める必要がある。

わが国においては、1945年前後には4000例を超える患者がいたが、その後、減少し、1999年以降は、年間7～21件の発生に留まっていた。しかし、2011年5月、宮崎県の実業学校で集団感染が発生、4名が発症し、1名が死亡、保菌者は8名に上った。国内での集団発生を重く見た文部科学省は、2012年4月、学校保健安全法第18条に定められる「学校で予防すべき感染症」第二種に、IMDの代表的症状である「髄膜炎菌性髄膜炎」を追加。さらに2013年4月の感染症法の改定で、全数報告対象となる第5類感染症に規定される疾患が、従来の髄膜炎菌性髄膜炎から、髄膜炎菌を起炎とする髄膜炎・有症状の菌血症・敗血症などを含めた「侵襲性髄膜炎菌感染症」に拡大された。対象疾患が増えたこともあり、2013年4月から2014年3月までの報告件数は32件と、2012年度1年間の報告件数13件から倍増している。

10代の感染リスクが高いとされるIMDは、保菌者の中で、なぜ特定の人だけが発症するのかなど、IMDの発症メカニズムはまだ解明されていないが、予防にはワクチンが有効であることが分かっている。現在のところ、国内で承認されたワクチンはないが、海外では既に米国やカナダをはじめとする多くの国でIMD予防ワクチンが使用されており、国内でもワクチンの導入が期待されている。

そこで、QLifeでは、感染リスクが相対的に高い海外渡航経験者に調査を行い、髄膜炎ワクチンに関する意識調査を行った。なお、同時に本人／家族がリスクの高い大学・専門学校（1年生ならびに小学5、6年生を持つ母親）の調査も行っている。

主な結論

今回の調査から、渡航者の疾患リスク管理について、海外での感染リスクに加え、キャリアとして国内での感染源になる可能性があることから、積極的に情報収集や対策・準備を行っていることが分かった。しかしながら、約3人に2人の65.8%が「対策や準備を行った」ものの、注意すべき疾患の一つであるIMDについては、41.1%が「知らなかった」と回答するなど、情報収集が不完全である可能性が推察される。外務省や厚生労働省などの国に加え、旅行会社や航空会社などの民間も含めた情報提供のさらなる強化が必要と思われる。

結論の概要

- 1) 海外渡航者の58.1%が病気のリスクを調査。対策や準備を行ったのは65.8%
主な情報源は「旅行ガイドブック」「旅行サイト」「外務省」「旅行会社」など。
渡航先の感染症情報について、48.5%が「十分な」「ある程度の」情報がある、と回答。
- 2) IMDについて「よく知っている」7.6%「ワクチンで予防できることを知っている」17.8%
IMDについて、41.1%が「全く知らなかった」と回答。ワクチンによって予防できる病気であることを「知らない」のは82.2%。
- 3) 9割以上がIMDを「非常に怖い」「やや怖い」病気と認識
「罹患率が低いものの重症度が高く、生存した場合でも一定確率で後遺症が残る」という説明に強く共感。IMDに対するワクチン接種についても95%以上が「重要」「やや重要」と回答。
- 4) IMDワクチン「とても接種したい」「やや接種したい」73.3%
IMDの詳細な情報を知る前と比較して、「とても接種したい」18.3ポイント増加。「あまり接種したくない」「全く接種したくない」4.9ポイント減少。
- 5) ワクチン接種「安全性」「防げる病気の症状や見分け方」を知りたい。情報源は「厚生労働省」「かかりつけの病院・クリニック」から信頼性高い
ワクチン接種の検討のきっかけは「かかりつけの病院・クリニック」「その地域に行ったことのある経験者」に勧められることが多数に。

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 過去5年間に海外渡航(旅行、留学、出張、赴任など)の経験がある人
- (2) 有効回収数: 1203人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2013/11/27 ~2013/12/8

▼有効回答者の属性

- (1) 過去5年間の海外渡航(旅行、留学、出張、赴任など)の経験:

	n	%
1回	172	14.3%
2~3回	341	28.3%
4~6回	301	25.0%
7回以上	389	32.3%
総数	1203	100.0%

- (2) 過去の渡航先:

	n	%
中国、香港、マカオ、台湾、韓国	932	77.5%
東南アジア	603	50.1%
西ヨーロッパ	428	35.6%
アメリカ本土、カナダ	343	28.5%
ハワイ	282	23.4%
グアム・サイパン	220	18.3%
東ヨーロッパ	193	16.0%
オセアニア	166	13.8%
中南米	104	8.6%
中近東	94	7.8%
インド	87	7.2%
北欧	83	6.9%
アフリカ北部	65	5.4%
ロシア	45	3.7%
中央アジア	32	2.7%
アフリカ中部	24	2.0%
アフリカ南部	19	1.6%
その他	14	1.2%
総数	1203	310.4%

(4) 性別・年代:

年代	男性	女性	n
20代	15	53	68
30代	81	130	211
40代	193	148	341
50代	188	113	301
60代	153	60	213
70代以上	61	8	69
総計	691	512	1203

(5) 居住地:

北海道 4.3%	青森県 0.9%	岩手県 0.6%	宮城県 2.3%	秋田県 0.3%	山形県 0.3%	福島県 0.5%	茨城県 0.9%	栃木県 1.0%	群馬県 0.7%
埼玉県 5.6%	千葉県 5.1%	東京都 13.8%	神奈川県 10.2%	新潟県 1.4%	富山県 0.3%	石川県 0.7%	福井県 0.7%	山梨県 0.5%	長野県 1.3%
岐阜県 1.4%	静岡県 2.3%	愛知県 8.1%	三重県 1.0%	滋賀県 1.0%	京都府 1.8%	大阪府 7.1%	兵庫県 8.5%	奈良県 1.2%	和歌山県 0.6%
鳥取県 0.5%	島根県 0.2%	岡山県 2.1%	広島県 2.2%	山口県 0.8%	徳島県 0.4%	香川県 0.7%	愛媛県 1.0%	高知県 0.4%	福岡県 3.6%
佐賀県 0.4%	長崎県 0.6%	熊本県 1.2%	大分県 0.4%	宮崎県 0.1%	鹿児島県 0.1%	沖縄県 0.8%			

【Q1】渡航前に現地の感染症情報など、病気のリスクを調べましたか。

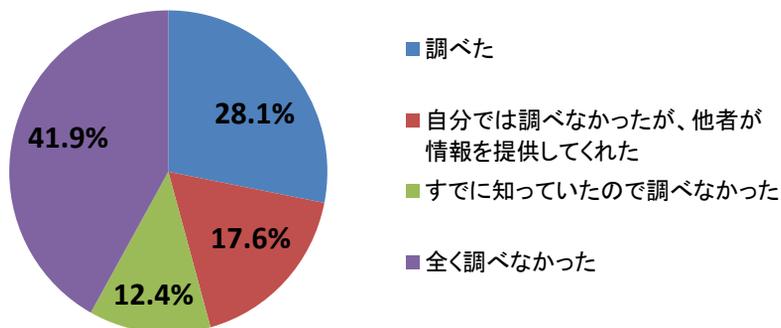
「すでに知っていた」「他者が情報を提供してくれた」も含めると約6割の渡航者が病気のリスクを調べている。

n=1203

(SA)

	n	%
調べた	338	28.1%
自分では調べなかったが、他者が情報を提供してくれた	212	17.6%
すでに知っていたので調べなかった	149	12.4%
全く調べなかった	504	41.9%
総数	1203	100.0%

**渡航前に現地の感染症情報など
病気のリスクを調べたか**



n=1203

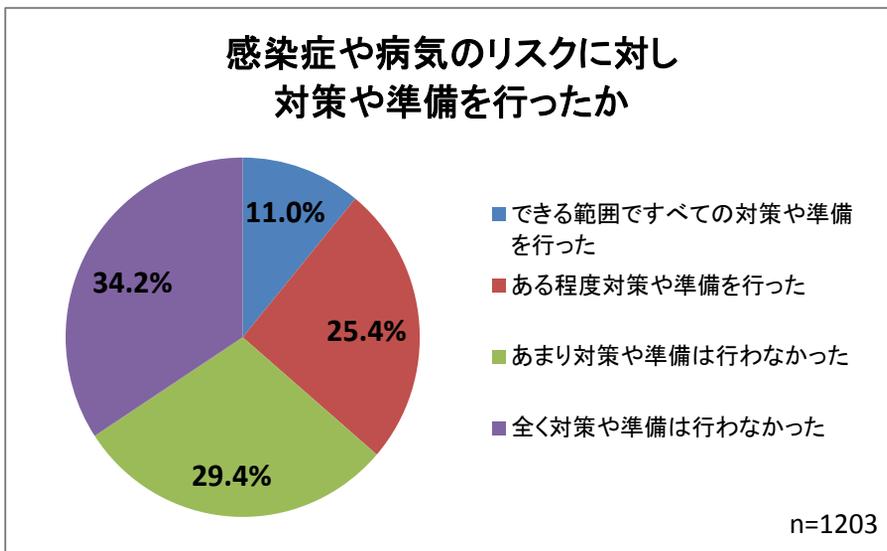
【Q2】感染症や病気のリスクに対し、対策や準備を行いましたか。

「すべて行った」「ある程度行った」と回答したのは36.4%。一方、34.2%の渡航者が「全く行わなかった」と回答した。

n=1203

(SA)

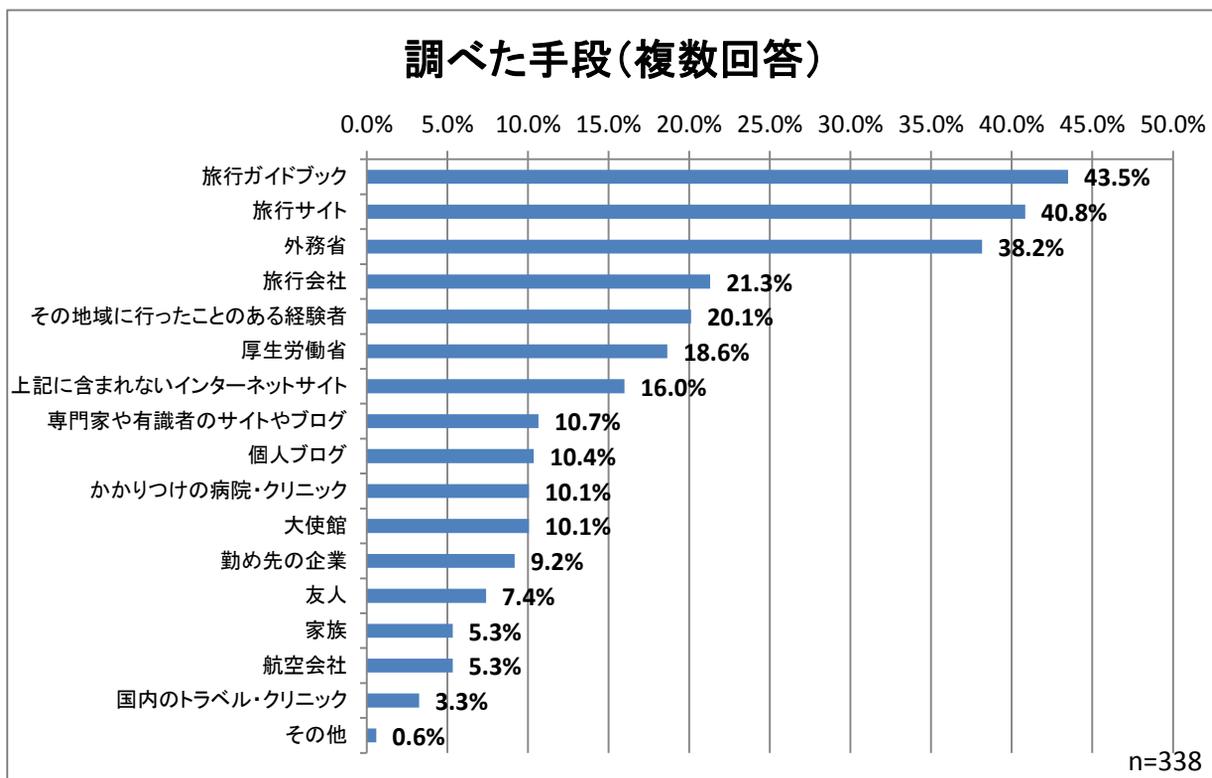
	n	%
できる範囲ですべての対策や準備を行った	132	11.0%
ある程度対策や準備を行った	305	25.4%
あまり対策や準備は行わなかった	354	29.4%
全く対策や準備は行わなかった	412	34.2%
総数	1203	100.0%



【Q3】どのような手段で調べましたか。当てはまるものすべてを教えてください。(Q1で『調べた』と答えた人のみ回答)(複数回答)

情報源について、1人あたり2.7の情報元から情報を収集していた。最も多かったのが「旅行ガイドブック」の43.5%。次いで、「旅行サイト」「外務省」「旅行会社」だった。

	n	(MA)
	n	%
旅行ガイドブック	147	43.5%
旅行サイト	138	40.8%
外務省	129	38.2%
旅行会社	72	21.3%
その地域に行ったことのある経験者	68	20.1%
厚生労働省	63	18.6%
上記に含まれないインターネットサイト	54	16.0%
専門家や有識者のサイトやブログ	36	10.7%
個人ブログ	35	10.4%
かかりつけの病院・クリニック	34	10.1%
大使館	34	10.1%
勤め先の企業	31	9.2%
友人	25	7.4%
家族	18	5.3%
航空会社	18	5.3%
国内のトラベル・クリニック	11	3.3%
その他	2	0.6%
総数	338	270.7%



【Q4】調べなかった理由について詳細に教えてください。(Q1で『全く調べなかった』と答えた人のみ回答)

以下に代表的な回答を列記する

- ・自分には関係ないと思った
- ・一般的なリスク管理で事足りると判断したから
- ・ヨーロッパで感染症のリスクがあるとは想定していなかったから
- ・ツアーだから食べ物など大丈夫という意識から
- ・会社からの注意無し
- ・病気になった場合、保険に入っているので、現地の病院で対応できると思った
- ・旅行会社の担当者から何も話がなかったから。
- ・親族(妻の実家)訪問なので必要ないと思ったから。
- ・途上国でもないのに、あまり危機感もなく、危険だと思わなかったし、意識もしていな・都市中心であったので、特別な感染症はないと考えていました。一度は新型インフルエンザが日本でも流行しているさなかでしたので、その時にはマスクを持参するなどはしました。
- ・一週間程度の滞在であり、リスクはあまり高くないと思ったから
- ・日本人に人気の観光地であるため、大丈夫だと考えていた。また、あまり準備の時間がなかった。
- ・秘境とか、危ない地域ではないと思っていたから。
- ・考えが及ばなかった
- ・日本と変わらないと思ったので
- ・渡航先に感染症情報が表だってなかった
- ・何が流行っているか知らなかったから
- ・特に心配ないと思ったから
- ・台湾は日本と近い国なので外国とは言ってもあまり不安を感じなかったし、都市部だけの訪問だったのでそこまで気にする必要はないと思っていたから。
- ・行き先が先進国ばかりだったので大丈夫だと思った

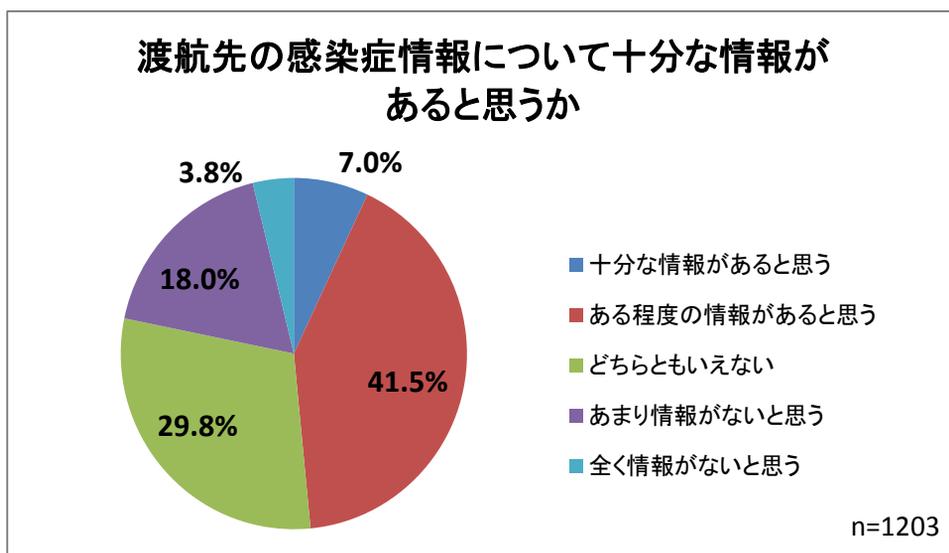
【Q5】渡航先の感染症情報について、十分な情報があると思いますか。

48.5%が「十分な」「ある程度の」情報がある、と回答。一方、「あまり」「全く」情報が無い、と回答した渡航者は21.8%だった。

n=1203

(SA)

	n	%
十分な情報があると思う	84	7.0%
ある程度の情報があると思う	499	41.5%
どちらともいえない	358	29.8%
あまり情報がないと思う	216	18.0%
全く情報がないと思う	46	3.8%
総数	1203	100.0%



【Q6】病気の予防や健康管理について、最も近いものを教えてください。

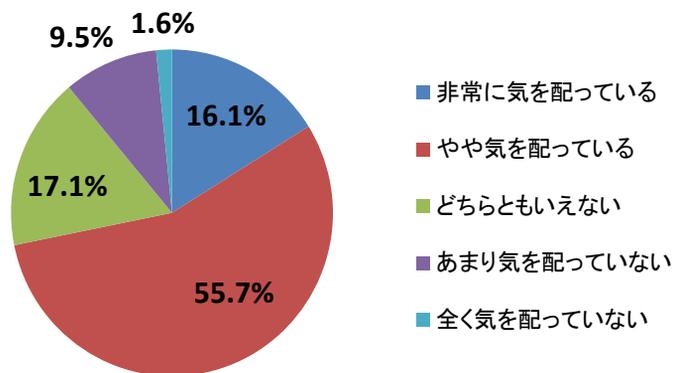
71.8%が「非常に」「やや」気を配っていると回答した。一方、「あまり」「全く」気を配っていない、と回答したのは11.1%だった。

n=1203

(SA)

	n	%
非常に気を配っている	194	16.1%
やや気を配っている	670	55.7%
どちらともいえない	206	17.1%
あまり気を配っていない	114	9.5%
全く気を配っていない	19	1.6%
総数	1203	100.0%

病気の予防や健康管理に気を配っているか



n=1203

【Q7】髄膜炎菌が引き起こす病気について、見聞きしたことはありますか。

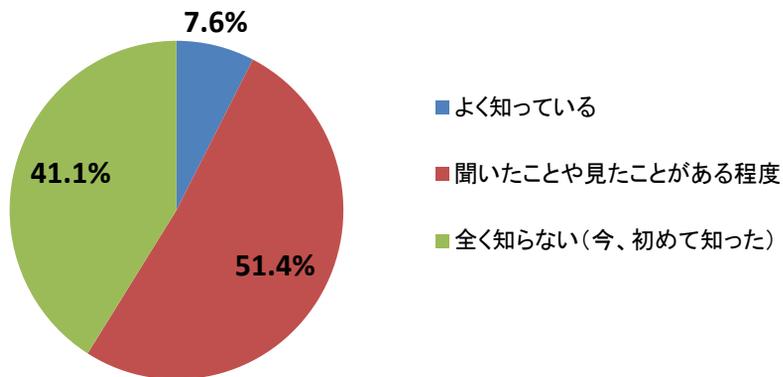
何らかの形で知っていると回答したのは59.0%だった。しかし、その大半が「聞いたことや見たことがある程度」で、「よく知っている」と回答したのは7.6%にとどまる。

n=1203

(SA)

	n	%
よく知っている	91	7.6%
聞いたことや見たことがある程度	618	51.4%
全く知らない(今、初めて知った)	494	41.1%
総数	1203	100.0%

髄膜炎菌が引き起こす病気について
見聞きしたことはあるか



n=1203

【Q8】IMD(=侵襲性髄膜炎菌感染症:髄膜炎菌が引き起こす病気を総称してこう呼びます)は、ワクチンによって予防できる病気です。このことをご存じでしたか。

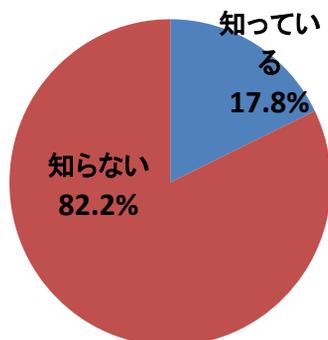
17.8%が「知っている」と回答した。

n=1203

(SA)

	n	%
知っている	214	17.8%
知らない	989	82.2%
総数	1203	100.0%

IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)が
ワクチンによって予防できる病気であるこ
とを知っていたか



n=1203

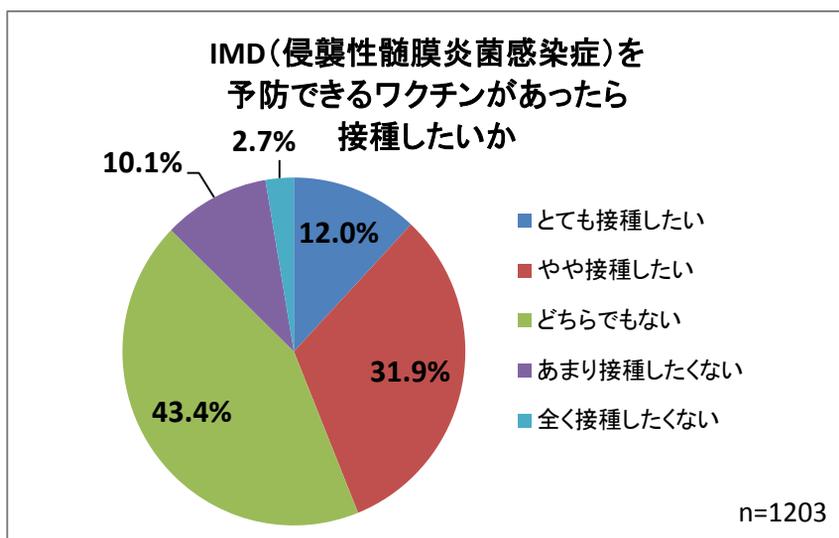
【Q9】 IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)を予防できるワクチンがあったら接種したいですか。

「とても」「やや」接種したいと回答したのは、全体の43.9%。一方、「あまり」「全く」接種したくないと、12.8%が回答した。

n=1203

(SA)

	n	%
とても接種したい	144	12.0%
やや接種したい	384	31.9%
どちらでもない	522	43.4%
あまり接種したくない	121	10.1%
全く接種したくない	32	2.7%
総数	1203	100.0%



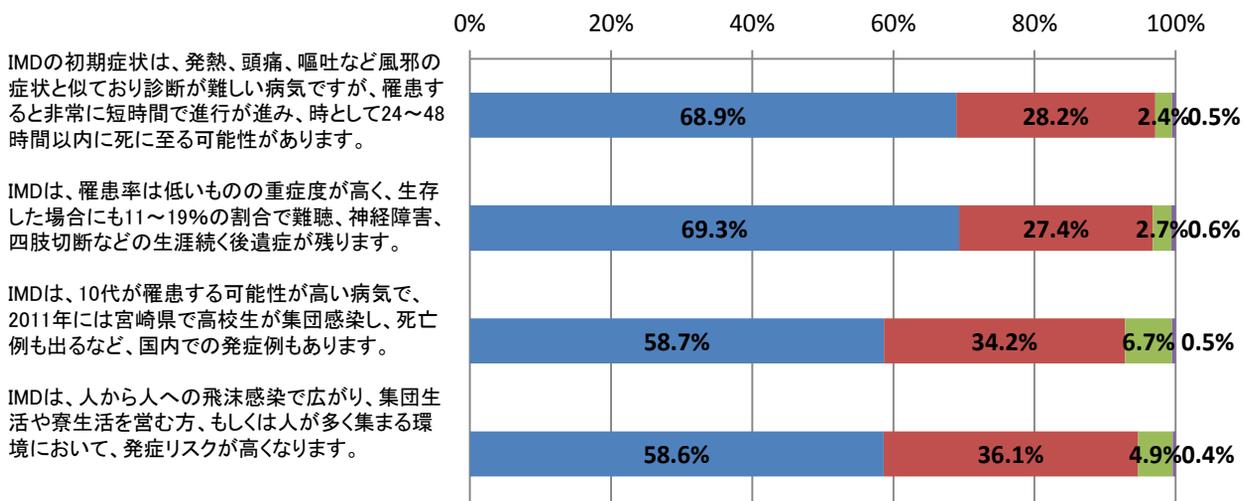
【Q10】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。

全説明において、9割以上の渡航者がIMDについて「非常に怖い」「やや怖い」病気だと思ふ、と回答。「非常に怖い病気だと思ふ」と回答した比率が最も高かったのは「IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。」という説明だった。

	IMDは「非常に怖い」病気だと思ふ	IMDは「やや怖い」病気だと思ふ	IMDは「それほど怖くない」病気だと思ふ	IMDは「全く怖くない」病気だと思ふ	n	IMDは「非常に怖い」病気だと思ふ	IMDは「やや怖い」病気だと思ふ	IMDは「それほど怖くない」病気だと思ふ	IMDは「全く怖くない」病気だと思ふ	%
IMDの初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など風邪の症状と似ており診断が難しい病気ですが、罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性があります。	829	339	29	6	1203	68.9%	28.2%	2.4%	0.5%	100.0%
IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。	834	330	32	7	1203	69.3%	27.4%	2.7%	0.6%	100.0%
IMDは、10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります。	706	411	80	6	1203	58.7%	34.2%	6.7%	0.5%	100.0%
IMDは、人から人への飛沫感染で広がり、集団生活や寮生活を営む方、もしくは人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなります。	705	434	59	5	1203	58.6%	36.1%	4.9%	0.4%	100.0%

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの

- IMDは「非常に怖い」病気だと思ふ
- IMDは「やや怖い」病気だと思ふ
- IMDは「それほど怖くない」病気だと思ふ
- IMDは「全く怖くない」病気だと思ふ



【Q11】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(IMDに対するワクチンの重要性について)

全説明において、95%以上の渡航者がワクチン接種は「重要」「やや重要」と回答した。最も「重要」であると回答した比率が高かったのが「IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。」という説明だった。

	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	n	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	%
IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。	679	465	53	6	1203	56.4%	38.7%	4.4%	0.5%	100.0%
IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。	697	449	49	8	1203	57.9%	37.3%	4.1%	0.7%	100.0%
IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。	794	362	41	6	1203	66.0%	30.1%	3.4%	0.5%	100.0%
IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。	730	408	53	12	1203	60.7%	33.9%	4.4%	1.0%	100.0%

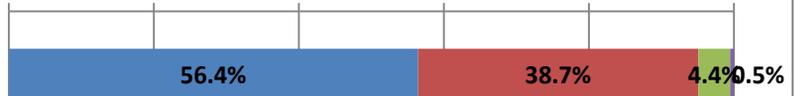
【Q11】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(つづき)

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの (IMDに対する予防ワクチンの重要性)

- IMDに対するワクチン接種は重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。



IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。



IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。



IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。



【Q12】前問までの内容を踏まえて、IMDを予防するワクチンが接種できるとして、あなたの気持ちに最も近いものを教えてください。

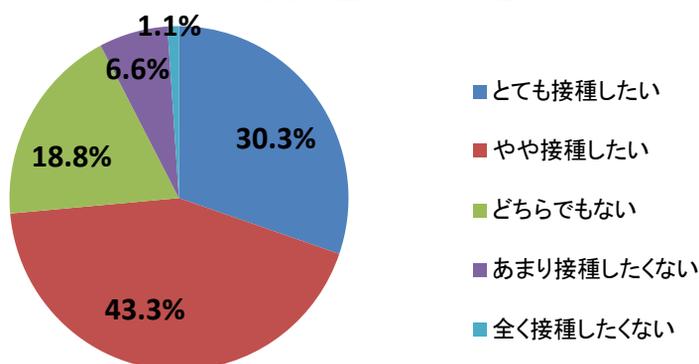
IMDについて説明した後のワクチン接種意向について、73.3%の渡航者が「とても」「やや」接種したい、と回答した。説明前に接種意向を尋ねたQ9と比較すると、「とても接種したい」は12.0%→30.3%と18.3ポイントの大幅な増加、「やや接種したい」は31.9%→43.3%、「あまり接種したくない」「全く接種したくない」の合計は12.8%→7.9%と4.9ポイント減少した。

n=1203

(SA)

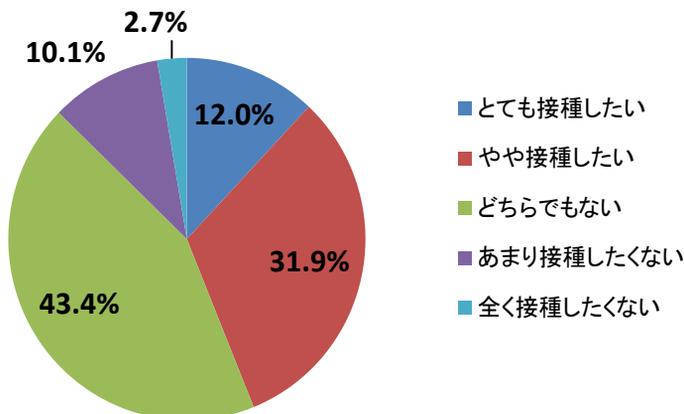
	n	%
とても接種したい	364	30.3%
やや接種したい	521	43.3%
どちらでもない	226	18.8%
あまり接種したくない	79	6.6%
全く接種したくない	13	1.1%
総数	1203	100.0%

前問までの内容を踏まえてIMDを予防する ワクチンを接種したいと思うか



n=1203

(参考)Q9 IMDに関する情報を知らない状態 でのワクチン接種意向



n=1203

【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。

以下に回答別に代表的なコメントを列記する。

【とても接種したい】

- ・若い人が罹りやすい病気だと思っていたが感染力が非常に高そうなので心配になった。よく海外旅行に行くが安全なところしか行ってないと思っていたが、感染者に遭遇しない自信がなくなった。
- ・子供が3人もいるので自分がもし感染したら未来がある子供達に迷惑をかけてしまうので
- ・直接中部アフリカに行く訳ではないが、空港や飛行機内では様々な国の人達がいる訳で、どんなところにも危険はある。少しでもリスクを抑えたい。
- ・軽く考えていたが、危険性が高いのでワクチンは接種するべきだと思う
- ・急性の症状がこわい。後遺症がこわい。子供や孫と同居しているので、歓声したらと思うと気が気でないから予防が出来るのであればしたい。
- ・海外(中国)へ行くことが多く、特にそこでもアフリカ系の人たちと一緒に行動する機会が多いため。
- ・自分の身も大事だが、家族や周辺の人にも影響を与えるものなので、みんなが罹患しないよう配慮すべきと考えます。
- ・罹患する確率は低いですが、飛沫感染することや、感染した時の、死亡率や後遺症が残る確率が高いので、予防接種を受けることは大切だと思う。
- ・数年前だが同僚が感染症で早期に死亡したので、同地域への渡航が多いので予防接種はしたいと考えている。
- ・日本脳炎や肝炎と同じような危険度と思うので、ワクチン接種をしたほうが良いと思う。ただ子宮頸がんと同じく、副作用が懸念されるので、義務化するためには詳しい調査が必要である。
- ・リスクの高い病気、ある程度海外でも認知度が高く、ワクチンの効果が評価されているならば、症状や影響度を考えた場合、義務に近い制度で対応すべきと考えます。
- ・ガーナへ渡航しましたので接種しています。国内で接種してから渡航しましたが、現地でも打ってます。海外渡航が珍しくない時代ですし、海外の方も日本へ来られますので、日本人もこういったワクチンで自衛すべきですが、存在を知らない人が圧倒的多数です。日本のワクチン行政のおざなりさを感じずにはいられません。
- ・如何なる感染症に対しても、ワクチン接種で感染を防げるのであれば、接種すべきと思う。ましてや感染力が強く、死に至るケースがある場合や後遺症が残る可能性がある感染症については、尚更、予防接種は必要と思うので。

【やや接種したい】

- ・予防できるなら是非したいが、病院が限定で不便が懸念されそうだから。
- ・アフリカ中部へ行く予定があるのであれば、副作用のことも調べた上考えたい。
- しかし、年齢的にも、今の生活環境を考えると、罹患する確率は高くないと思うから。
- ・アフリカ等の高リスク国に行く場合は摂取したいと思うが、今までの説明ではワクチン接種の副作用に言及が無いためなんとも判断しがたい。
- ・国外へ、特にアフリカへ行くときは必須に思う。黄熱病ワクチンとのマッチングは大丈夫なのか？
- ・実際に危険の高い地区に渡航するときには接種したいと思うが、日本にいるだけなら必要かどうか微妙。副作用のこともあるので、ちょっと考えると思います。
- ・急激な症状の悪化と、適切な治療法が無い、感染力が強い、回復しても後遺症が残る場合もあると言うのが現状なので、もしどうしても流行地へ行く場合は接種したい。
- ・日本であまりこの接種をした前例がなさそうなので予防接種したことで起こる副作用が心配だから、接種したいけど思い悩む。
- ・家庭の医療費が現時点でも高額になっていて、ワクチン接種に回せるお金を捻出できるか、分からないから。
- ・あまりアフリカに行くことは無いが、渡航した人間もいるわけだし、飛沫感染するのであれば、必要だと思う。対象地域に渡航する場合、義務付け入国にあたっては厳重にすべき
- ・費用が気になる。1万円以上すると接種しないと思う。5,000円位なら接種すると思う(海外に行く場合)。
- ・この感染症がリスクが大ききことを初めて知りましたが、現在どのあたりの国でどの程度流行しているのかの情報が少ないので、接種に対しても積極的にしたいとは感じられません。
- ・IMDにかかってしまった場合のリスクがとても大きく深刻であるので、ワクチン接種によりそれを防げるのならば接種したいと思う。しかし、日本で承認されているワクチンがないということであると、ワクチン自体への不安感も出てきます。日本で認められているものでないと安全性が気になります。日本でワクチンが認められたならば、海外に行く際などは積極的に接種したいです。

【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。(続き)

【どちらでもない】

- ・IMDの特性やリスクについて考えたこともなかったので、今後あらためて自分でよく調べてからワクチン接種の要否・是非を吟味したいと思うから
- ・年齢が56歳ということと、アフリカには多分行かないと思うので、感染リスクはかなり少ないと思う。
- ・費用が高そう
- ・衛生状態の悪い国へ行くときは必要かもしれないけれど、ごく普通の国への渡航ならあまり問題ないように思う。
- ・危険な地域には行かないので、日本で承認されたワクチンがないのであれば、当分は接種しないで静観する。
- ・渡航先での発生状況で判断したい。国内では必須とは思わない。
- ・ワクチンの副作用情報がないので判断できない。高齢で、人が密集するところには行かないので、国内でのリスクは低いが、感染地域への渡航などの場合には是非接種を検討したい。
- ・対象国を見てからの対応となる。他の感染症もワクチンの効果が確認されていないものもあり、新型など考えると、摂取するリスクや費用面、時間と、渡航先や日程、医療状況を検討して対応したいので。
- ・日本国内での感染、発症例は希で一般人が罹患する確率は低い。しかも、IMD予防ワクチン接種による副作用について十分の理解がない現在、直ちに予防接種をする気にはなれない。例で言えば、「子宮頸がん」の予防接種の副作用が喧伝されたのは、その一例である。
- ・国内で重要な感染症や遺作が急務なら、牛のBSE対策ほどではないにしろ、新型インフルエンザ並みの厚生労働省の動きがあるはずだが、ダニ感染症ほどの罹患例が聞こえてこないから。国内のワクチン製造設備に限界があるけれども、輸入ワクチンと新しい予防ワクチンには副作用が大きい場合が多く、個人のリスク回避も重要だから。
- ・発症率など病気のリスクと、予防接種以外での予防方法の有無、予防接種によりどの程度重篤な副作用が出るのかなどを詳しく知った上で摂取すべきかどうか判断したいから。
- ・何でもワクチンではキリがない。この病気にかかる恐れがある場合はあらかじめ予防接種を受けた方がよいと思う。

【あまり接種したくない】

- ・罹患して死亡するリスクよりも、ワクチンの安全性のほうを疑問視する
- ・年齢的に感染することは少ないと思われるのと、ワクチンによる後遺症などが気になるので。
- ・アフリカ等に渡航する際は是非接種したいが、国内にいる間は特に緊急の接種の必要性を感じない
- ・ほかにも罹患するリスクのある病気はさまざまある。ワクチン接種で起こる副作用などのリスクもある。人間が生きていくうえで全てのリスクは回避できないので、罹患率の低い病気に対するワクチンの接種の重要性には疑問があります。
- ・子宮頸癌ワクチンの後遺症を見て、歴史が証明していないものは怖いと思うから。

【全く接種したくない】

- ・リスクのある国には行かないし、献血や健康診断を定期的に受けているので感染するとは思えない。
- ・罹患確率が交通事故死の確率より低いと感じる
- ・ワクチンのほうが信用ならない
- ・副作用を考えると予防接種を受けるまでもない

【Q14】ワクチンの接種を検討する際に、知っておきたい情報はありますか。(複数回答)

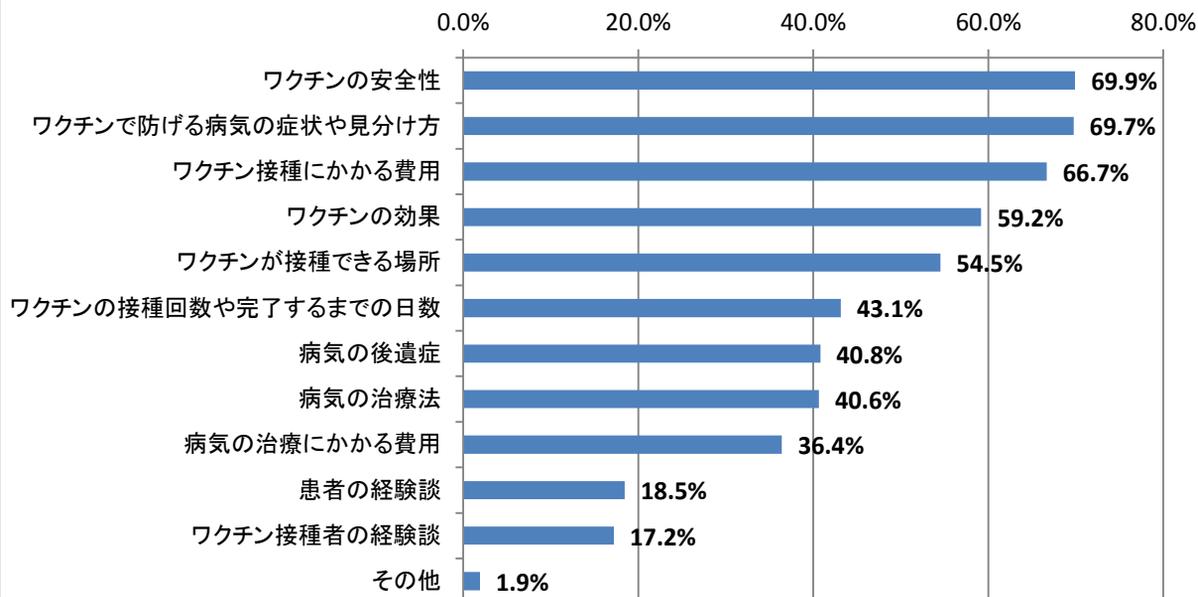
「安全性」と「防げる病気の症状や見分け方」を知りたいという声が多くそれぞれ69.9%と69.7%だった。次いで「費用」「効果」「接種できる場所」だった、

n=1203

(MA)

	n	%
ワクチンの安全性	841	69.9%
ワクチンで防げる病気の症状や見分け方	839	69.7%
ワクチン接種にかかる費用	802	66.7%
ワクチンの効果	712	59.2%
ワクチンが接種できる場所	656	54.5%
ワクチンの接種回数や完了するまでの日数	519	43.1%
病気の後遺症	491	40.8%
病気の治療法	489	40.6%
病気の治療にかかる費用	438	36.4%
患者の経験談	222	18.5%
ワクチン接種者の経験談	207	17.2%
その他	23	1.9%
総数	1203	518.6%

ワクチンの接種を検討する際に知っておきたい情報
(複数回答)



n=1203

【Q15】誰に勧められたらワクチン接種を検討しようと思いますか。(複数回答)

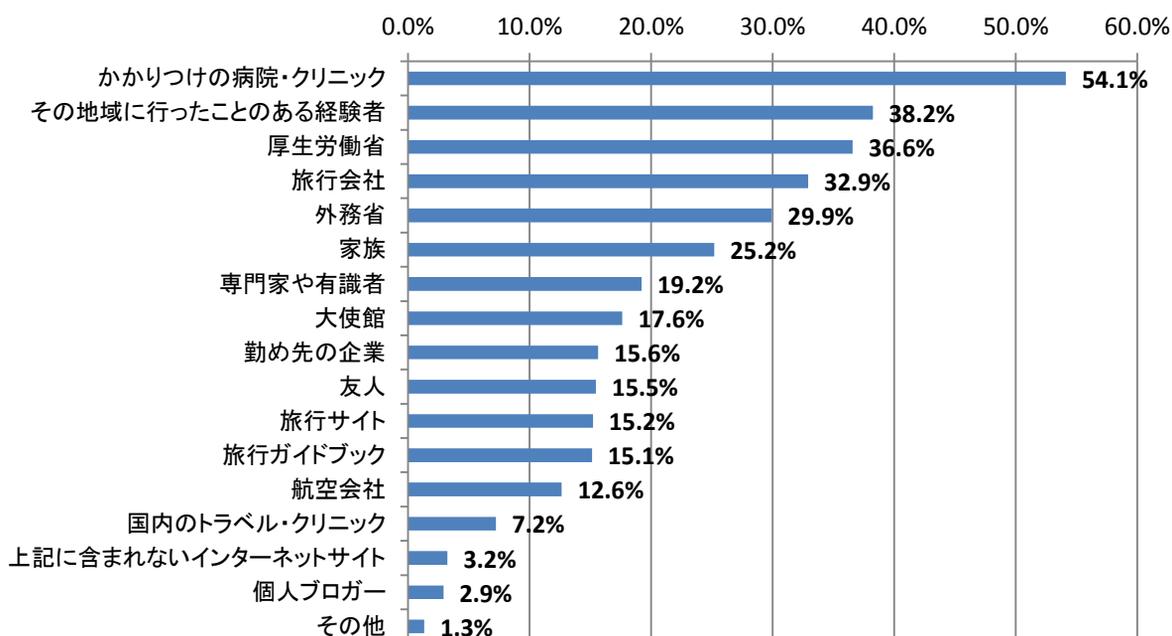
「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く54.1%。次いで「その地域に行ったことのある経験者」「厚生労働省」「旅行会社」が続いた。

n=1203

(MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	651	54.1%
その地域に行ったことのある経験者	460	38.2%
厚生労働省	440	36.6%
旅行会社	396	32.9%
外務省	360	29.9%
家族	303	25.2%
専門家や有識者	231	19.2%
大使館	212	17.6%
勤め先の企業	188	15.6%
友人	186	15.5%
旅行サイト	183	15.2%
旅行ガイドブック	182	15.1%
航空会社	152	12.6%
国内のトラベル・クリニック	87	7.2%
上記に含まれないインターネットサイト	39	3.2%
個人ブロガー	35	2.9%
その他	16	1.3%
総数	1203	342.6%

誰に勧められたらワクチン接種を検討しようと思うか
(複数回答)



n=1203

【Q16】ワクチン接種に関する情報は、どこから得るのが最も信頼が高いと思いますか。(複数回答)

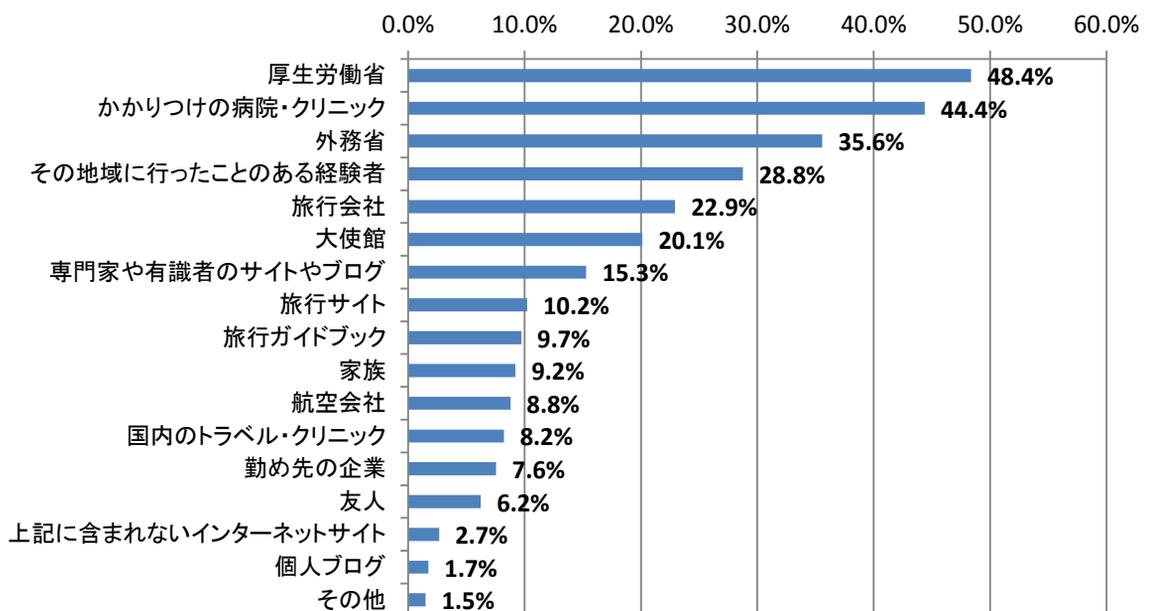
情報源への信頼度については、「厚生労働省」が最も高く48.4%。次いで、「かかりつけの病院・クリニック」「外務省」「渡航経験者」の順になった。

n=1203

(MA)

	n	%
厚生労働省	582	48.4%
かかりつけの病院・クリニック	534	44.4%
外務省	428	35.6%
その地域に行ったことのある経験者	346	28.8%
旅行会社	276	22.9%
大使館	242	20.1%
専門家や有識者のサイトやブログ	184	15.3%
旅行サイト	123	10.2%
旅行ガイドブック	117	9.7%
家族	111	9.2%
航空会社	106	8.8%
国内のトラベル・クリニック	99	8.2%
勤め先の企業	91	7.6%
友人	75	6.2%
上記に含まれないインターネットサイト	32	2.7%
個人ブログ	21	1.7%
その他	18	1.5%
総数	1203	281.4%

ワクチン接種に関する情報はどこから得るのが信頼が高いと思うか(複数回答)



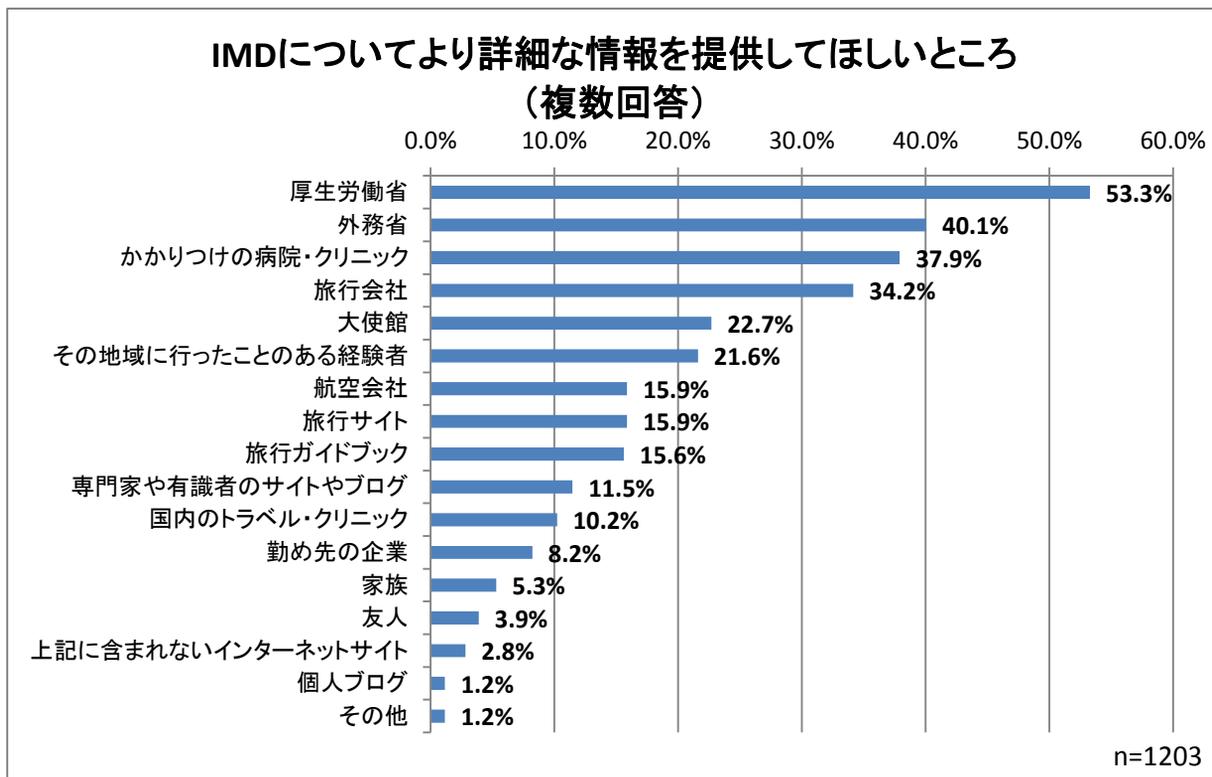
n=1203

【Q17】IMDについて、より詳細な情報を提供してほしいと感じるのはどこですか。(複数回答)

「厚生労働省」「外務省」と国により詳細な情報の提供を求める回答が最も多かった。次いで、「かかりつけの病院・クリニック」「旅行会社」「大使館」となった。

n=1203 (MA)

	n	%
厚生労働省	641	53.3%
外務省	482	40.1%
かかりつけの病院・クリニック	456	37.9%
旅行会社	411	34.2%
大使館	273	22.7%
その地域に行ったことのある経験者	260	21.6%
航空会社	191	15.9%
旅行サイト	191	15.9%
旅行ガイドブック	188	15.6%
専門家や有識者のサイトやブログ	138	11.5%
国内のトラベル・クリニック	123	10.2%
勤め先の企業	99	8.2%
家族	64	5.3%
友人	47	3.9%
上記に含まれないインターネットサイト	34	2.8%
個人ブログ	14	1.2%
その他	14	1.2%
総数	1203	301.4%



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴
TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>
